別 18
12

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12

ガラス使用

別 18
12

美術書肆
柏林社
東京都文京区森川町2
電話 (92) 5445

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12

ガラス使用

別18
12

御初穂
金叩千匹
何ノ誰
御香奠
金叩千匹
何ノ誰
右両包とも一枚紙
包(但一包ともに)
添文貝緑
進上
一屓 一
一時 一箱

作(つくり)酒(さけ)
饗(あるじ)
醸(かもし)酒(さけ)
練(ねり)金(がね)
煉(ねり)薬(くすり)
練(ねり)絹(きぬ)
延(のべ)
板(いた)
前(まえ)の包(つつみ)
紙(がみ)
焼(やき)
炙(あぶり)
汚穢(けがれ)の
物(もの)
倪容(ようす)
有(あり)
の
餐(たべもの)
等(など)

○貝緑(かいろく)の事(こと)
若(もし)その外(ほか)
ある時(とき)の
貝緑(かいろく)も堅貝緑(かたかいろく)
貝緑(かいろく)
添文貝緑(そえぶみかいろく)も同(おなじ)
緑(ろく)のかわりの
あります 城(しろ)へ
きこえ候(そうろう)
ようにくるべく
堅貝緑(かたかいろく)

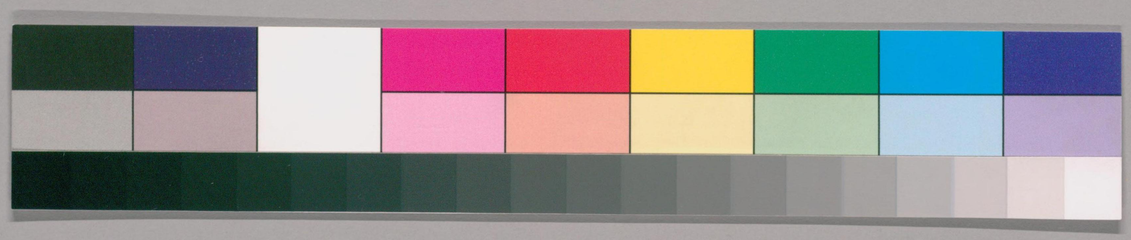
進上
干鯛 一箱
御樽 一荷
以上
何ノ誰
五人 男(だんし) 五人(ごにん)あて 右(みぎ)の

○八十一

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12

ガラス使用



別18
12

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12

別18-12

井上通泰蔵書記

伊藤篤太郎記

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12

ガラス使用

井上哲次郎
蔵書記

花史雑記

伊藤圭介 稿

訳ハ植學訓蒙ノ為メ群芳ノ難纂シ其名称産地形状効用等ノ諸説ヲ集解シ又ヲ初學ヲシテ款ス盖シ瀏覧一遍セハ亦諳ノ一助タラシメンコトヲ欲スルノミ無益ノ贅言ニ非ヲ可シト自ラ信スレバナリ

○梅

梅ハ牛女又宇女ト訓シ此花ノ異名「ニホヒクサ」カセヱテ「クサシクグサ」カトラクサシ等古歌詠ン所数名アリ亦頗ル雅趣ヲ覚ユ雅甸ハ呼ンデ花魁・羅浮仙・大庾公等異称ニヒテ此雅甸ノ種名ハ其ノ品ノ高下ヲ以テ之ヲ定ム花ト呼ンデ梅花ニヒテ甲乙ヲ着ケ又我邦ノ上古櫻ヲ称セリ、支那ニテハ花ト云ヘバ牡丹ヲリ此花

627.11
I795本
国立国会図書館蔵書
国立国会
31.11.-2
図書館
U 52380

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12
ガラス使用

ノ変種異品其数多ク遺ナソノ名称モ亦極テ夥シ普通ノ称アリ又一物ニシテ種樹家ノ名異ナルモ亦尠カラズトス松屋玄達翁カ編輯ノ梅品小冊子ナレモ十餘種ヲ蒐集シテソノ図説ヲ載セリ又梅秀外史ノ梅品自筆図説ハ着色図ハ十種ヲ詳悉セリ漢士ニモ此石湖ノ梅譜張幼甫ノ梅花百詠アリ竹坡軒梅卅ハ清人鄭小樵ノ所著ナルカ林則徐之ニ序シテ宗伯仁ノ梅花喜神譜ハ甲斐ヨリ就実スル所ノ図ニシテ梅ノ神ヲ訂シ詢ニ梅花ノ図説ヲ著スル者ニシテ其物ノ図傳フルモノ賞セリ其他梅花ノ図説ヲ著スル者甚多シ

○梅ノ産地ハ和訓抹ニハ漢渡ノ者ニヤ未タ山生ノ品ヲ観ストニヘリ而ルニソノ名花ハ舶種アリト雖モ其樹実ニ我邦ニ自生アリ譬ヘバ伊豆ノ天城ノ森嶺ノ梅谷ト称スル山中ニヨリ自生セル梅ハ矯屈シテ赤卧龍ノ状ヲナスト或説ニ甲州富士川ノ岸辺ニモ亦梅アリト巌石ノ間ニ自生スル此樹矮小ニシテ老幹横斜屈曲殊ニ雅致アリ移シテ盆栽トナシ愛玩スベシトイヘリ

○梅花ノ逸致ハ梢ノ妖艶ニ幹ノ蒼古ニ清香馥郁ニ実ノ酸美ニ白花ノ魁夕ニ花候ノ早晩アリ八月梅冬至梅ノ品アリ雑ニ大小単複千葉六瓣等アリ色ニ白紅深紅淡紅淡黄等アリ又ハイシハ紅ニシテ紫ヲ帯ビ千葉ノ者ハ黄ヲ帯ビ又青ハ黄金梅銭紋梅小吹梅ナリ深紫色ノモノヲ黒梅ト呼ブアリシハ其雪

緑萼　色、数枝ノ色赤ク白花ニシテ單瓣千瓣アリ
所謂緑萼梅ナリ又水仙梅、八重梅、赤色ニシテ紅梅ト
優レリ緋梅、香、
シバシバ黄金梅ナリ花細ニシテ蕊ニ着キ蕊ハ黄
色ヲ多ク露出スルモノヲ梅花ノ形色ハ前ニモ
謂フカ如クソノ品別、最モ彰ヲニシテ今一々詳載
スルヲ能ハス
○桃ノ夭々ヨリハ詩ヲ之ヲ費美シタル所以梅
咏ムルノ句ハナシ標有梅ノ如キ名ヲ経傳ニ載ス
ル所只ソノ実ヲ取ルノミニシテ五雑俎ニ花
ノ花ニ似不着意至如梅柱則取以為調和滋味之
具トス本邦ニテモ諸國梅林梅樹ノ栽ウルノ地ア
リ皆有梅ヲ制ス或ハ乾梅トナシ紅染ノ料ニ
供スルモノニシテ都会ノ梅荘ノ如キ専ラ花ヲ賞スル
ヲ主トセガルナリ然レドモ我邦ニテハ早ク此花
ヲ賞セシ事既ニ
仁徳帝ノ御代ニモ難波津ノ歌アリシナリ
○又其実ニモ大小アリ小ナルヲ梅ト謂ヒ大ノ
実ヲ統ベ青ハ醃ス可梅即酸梅ナリ又此材質
ハ堅密ニシテ光沢アリ枝トナシ諸器ヲ造リテ頗ル
雅致アリ紅梅ハ幹根赤紅色ヲ帯ビ共ニ良材ト
○側金盞花
世ニ獻歲ノ一盆栽トシ梅唇ト共ニ笑ノ宮ト加賀宮
ニ殖ウルヲ以テ其花形金盞ヲ側タツル姿ナルヲ以テ柱海鳳衛士ニ側金盞
和名一名元日草（大和本草又本曽

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12
ガラス使用

方言）「フクジンサウ」（勢州坂下）「タケレンゲ」（飛州）「ニンサク」（南部）「ツイタチサウ」「志賀キク」「フクツクサ」「富士ギク」「フクトクサウ」「元」「車且ケ」「ミヤビ」（北海道）

又誤名ハ歲菊（漳州府志）長春菊（台灣府志）事物紺珠雪蓮（西域聞見錄）獻歲菊（台灣府志）報春花（清俗）ノ數名アリ羅甸名 Aster Amœnus, Aster Tataricus ナル林氏第十三經第四目自然科ニ屬セス產地ハ兩武洲、青梅、秩父、信濃、訪松本、木曾、贊川、勢刕坂本山、經ケ峯、盤城、会津、肥後ノ山、薩州、其他諸国深山巡信ニ自生スル或ハ草ノ多ク產スル地アリテ花時（金山黃色ニ數ストノ

果ニテ然ルヤノ如キニ非ス形狀ハ通常壯人ノ熟知ルノ品ナリト雖モ茲ニソノ一二ノ說ヲ贅スル者初冬ノ候ニ至レハ園圃ノ雜蔬ニ代ルヘキ菜味尤美ニシテ毎頂花ヲ着ケ五香ヨリ朝旱ニ葉形長スルハ頗ル多キ品ニテ瞬日ヨリ啓蟄ニ至ル金黃色ニシテ美麗欣賞スルニ堪ヘタリ形色數種アリ隋ニ文化ノ頃ヨリ此花ヲ寺院ニ植テ流行シテ珍花奇品多ク出ヨリ初冬ノ候迄淡黃ニ變スルモノアリ白花ハ江州北山ヨリ出ツ又南部仙渡北海道ニ花葉共ニ大ナル者アリ青梅產ニ大花佳品モアリ又千瓣ノ者アリ花戶ニ菊咲ト呼ブ又「フキツメ」トニハ萬重ニシテ心ナキモノナリ瓣細ニ厥裂スルヲ撫子咲トス二

肢咲ア〜紅花、淡紅花ノモノア〜一種花ノ淡緑色ノ者シアサギト呼ブ其他変種数品アリ又下種ヨリ奇品シ得ベケアラ共ニ奔花家ノ珍愛ラル所トス又此草ハ黒龍江ノ地ニモ産スト云扈ノ岡ハ洋書中ニ数種見エ又此根ハ薬用ニ供シテ下痢ノ効アリトモ云フ筆笠小牘ニモ福寿草ノ説シ登載セリ亦参観スベシ又朱カ家蔵ニ福寿艸岡語一巻アリ着色岡二十一種ヲ収ムト云フ

撰者未詳カナラズ

○臘梅

ラウバイ」画名「カラムメ」「テンオンムメ」「タウムメ」「ランムメ」「ロモリノキ」土州ノ子ノタウバイ」

漢名臘梅一名九英梅（汝南国史）狗蝿梅

（全）黄梅花（本草綱目）羅甸ハ Climo-nauthus 自然科目臘梅科、林氏綱目第十二綱第三目ニ屬スル樹ハモト本邦ニ自生セシ後水尾帝ノ寛代弘化年間漢種シ舶載スル改ニテンキンムメノ名アリト其説ニ臘梅ハ和産ノ品ナリ熟レカ是ナルシ知ラス洋書ニハ蓋シ倭産ナルカ可シ西洋ヘハ千七百十六年支那ヨリ舶載スト云フ丈ケ其幹叢生シ高サ五六尺ヨリ丈餘ニ及ブ葉ハ對生シ形尖頂楕円平滑ニシテ柿葉ニ似テ頂端尖リ楕円ニ近シ葉樹ノ如ク物理小識ニ載ルニ見エシヨリ「オウバイ」ノ和名アルモ亦支那ノ釈名ヤシ小寒前

52380

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号　本別18-12

ガラス使用

之ヲ但救荒ノ説ニハ此花ヲ熟湯ニ燥シ漬浄シテ又塩ニ調ヘテ食フ可シトイヘリ又時珍ノ説ニ此花ハ暑解シ津ヲ生ストアレドモ其実ハ酸キヲ以テ又其核ハ大ニ苦キヲ以テ吳其澤ハ敢テ之ヲ信セス

○ 梅ハ百果ノ魁ト稱シ又時珍ノ説ニ其実ハ五味ヲ具ヘ其用ハ十全ニシテ大毒アリト往昔ノ醫僕此実ヲ採リ食ヒシニ忽チ腹痛下利ノ発シタルヲ以テ知レ可シ又其樹ハ水ニ浸シ墨ヲ磨セハ光采アリト本綱集解ニ出タリ又根ハ香気アリ味辛辣ナリト具原翁ノ説ニ見エ此他花蕊解剖ノ図説ハ小石川植物園草木図説ニ詳悉ナリ初学ノ徒ハ就テ考ス可シ

伝枝上ニ相對シテ短梗ヲ生シ黄花ヲ開キ下ニ向フ瓣色黄蠟ノ如クニシテ光沢アリ外瓣細長七片又其内輪ニハ大小八瓣アリテ蘂黒色ナリ五雄蕊一雌蕊トス実ニ天衆芳凋ノ実ノ深浅モ好シ花鬼斗ニ伴ヲ窓外ニ馥郁ノ雅致愛玩スヘシ梅澁雪ト題シテ君芳索莫江城密蠟枝頭綴ル英ト雖ハ此花ノ一名ナリ梅ハ黄山谷ノ説ノ如ク其色密蠟ニ似タルヲ以テ名ク〻然ルニ群芳譜ニ臘月花ヲ記シ又王氏彙苑ニハ非ナリ又王氏彙苑ニ呼ヲト亦鑒ルニ似タリ此蠟梅ヲ梅ニシテ花瓣ノ水ハ之ヲ飲メハ毒アリト

○瑞香

此ノ樹木ハ元来和産ニ非ズ漢種ナリト雖モ其何年ニ舶
載セシヤハ今之ヲ遡究スルヲ得ズ西洋モ
支那ヨリ之ヲ傳送セリトス又和名ハ「ゲンケヤウ」
「ゲンロクヤウ」「ナニセウ」但州千里香
私ニ圭ノ数名アリゲンケヤウノ名ハ唐音ノコヅ并シ
ヨシヨウ轉化シテ来ルヲ且其花香ノ沈香、丁香
ニ似テ形モ亦丁香ノ如クナルニ因リテ此ノ名アリト云
フ讃濮名ハ紫風流其他ノ異名多シ羅甸ハ
香科ニ屬シ漢土ニテハ林氏ハ経一日自然科目瑞
十友中ノ酔友十二客裡ノ佳客ト称シ人家ノ庭
除ニ多ク栽ウル常緑木ナリ其高サ僅ニ三四尺
枝葉婆娑葉ハ長形、深緑色ニシテ互生シ漢土ニ
ハ更ニ数種アリテ葉形一ナラズ枇杷葉、楊梅
葉柯葉其他数種アリ黄辺ノ者ヲ金辺瑞
香トイフ春分前後毎
枝ニ其花ヲ簇リ開ク雑
紫内彩紅、香気烈シク韓魏ノ詩ニ不管
鶯声向暁催錦衾香暁尚成堆ト是レ
此ノ花ノ驚香又錦被堆ノ異名アルニ因レリ

○連翹

春初ニ黄花ヲ着ケテ人目ヲ悦ガシムルハ此ノ樹ノ頃
ヲ第一トス迎春花、節花ノ屬
ニシテ連翹ハ亦其一ナリ連翹ハ字ハ和漢ノ
通名ハナリ古名ハ初名抄ニ以多知久佐

又以多知波勢ト稱ケタリ雖有ニ Spiraea Lucida, Spiraea Thunbergii ト錯定シケンペルグレーボルトノ如キ氏ハ共ニ我邦ニ於テ之ヲ創見シ因リテ日本植物書中ニ其図ヲ出ダセリ)

ベキストンノ植物辞書ニモ和産ト標セリ是レ元来欧州ニハ自生無キモノヽ如シ但本邦ニモ亦自産セズ漫ニ栽植セシモノナレドモ其何レノ年時ニ舶載セシヤヲ詳ニセズ落葉灌木ニシテ先輩ノ諸説ニ木本勝本ノ二種アリ却テ一種ノミヲ載セ笹モ其実ハ然ラズ一種ノミ之ヲ載セ又小ナルヲ以テ名ケシ心灌木状ヲ為セドモ然カラズ枝条長ク延ビテ恰モ藤蔓ノ如ク見エ其端地ニ着ケバ便チ生ズ故ニ琉球ニテハ垂枝連翹ノ方言アリ其長キ

ヲ以テ又「タニワタシ」ノ名モアリ山城大和ノ辺ハ多ク此ノ樹ヲ栄飾ノ傍ニ栽エ其実ヲ採リテ菓舗ニ輸セリ漢籍攷メテ痕家ノ主薬トス呼ンデ灌木ハ春ノ前后ニ方リ葉ニ先ダチテ花ヲ着ケ多クハ枝上ニ両対ス四瓣銭黄ニシテ愛玩スベシ花后漸ク葉ヲ生ズ形楕円ニシテ鋸歯アリ或ハ葉脚ノ左右ニ相対スルモ互生状ノ葉一二枚ヲ添フルモノアリ三小葉ヲ成シ或ハ稀ニ五葉状ヲ成スモノアリ其実ハ稜角ヲ結ビ后更ニ両剖裂ス枝ヲ折挿スレバ容易ニ活ス

◎櫻

櫻花ノ和哥ニ詠ズルヤ古名異称頗ル多シ「アケボノ」「ヤマヒメ」「ヤマガサ」「アダナガサ」「ヨシノガサ」

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12
ガラス使用

ヒトモジサ」等より漫、名ハ櫻即櫻桃ニシテ別物ニ非ス
其形ノ桃ニ似タレヨリ鸞桃、朱桃、
言桃等ノ異名アルナリ鸞桃ノ和歌
ノ解ヲ音訳セテ案ズ頼ノ字ヲ填ナリ羅甸
Prunus pseudo cerasus (シラヌヒ)
我カサクラ」ト支那ノ櫻トハ全類異種ニシテ其種
ノ相異ナルコトハ我カサクラ」ハ其花ノ放艶如霞ス
ベシヲ持珠ハ倉ブニヨリテ彼ノ櫻ハ濃粧ノ
観ルベキニ堪ヘタル無リ只其実ハ食用ニ供ス
ベキヲ以テサクラ」ナリ洋種ノ櫻モ亦全ク
又支那ニモ和産ノ如キ其花ノ愛玩スベキ品類
絶ヘテ無キニ非スト見エ唐畫花鳥ノ図中ニ
注セ観ルヲアラ植物名実図考ノ櫻桃ノ図

八全リ櫻花ナラン諸国珍事記ニ所謂錺雫ノ畫
ケル櫻花ノ如ク花形艶ニシテ世ノ櫻花ニ異ナラズト云ヘリ
此ノ説亦虚ナラザルベシ然レドモ畢竟其産太タ
希ナリト見エ故ニ我邦ニ来植セル者寥々
ラバ最之ヲ珍賞セラル邦人往々彼ニ有ヤ無
ヤヲ問ヘド未曾観之ト答フル者亦多シ清人
沈復浮生六記ニ到貢國始見ナドトアルハ
白樂天詩ノ注ニ海外ノ異種ヒトモジサノ如キ
無ンノ本邦ノ奇花タルヲ以テ海外ニ
亦享保復言ニモカクノ如キ唐土無之トアリ僧
道本ハ栗栖見氏花ノ奇ト咏ジ獨ノ海国桜
花重撒礒ト筆ス朱爵水ハ酷ク桜花

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12
ガラス使用

ヲ賞シ庭ニ数百株ヲ植エ満花ノ
中国有之営冠百花ト云ヘリ又字景陳
ノ賞桜日本盛於唐如桃杏牡丹兼海棠ノ何人
ニ眩気セリ近歳黄薫篤ノ日本雑事詩ニ朝
曦着到夕陽斜流水游龍闘宝車宴罷
紅雲歌絳雪東皇第一愛桜花註云桜
花五六州所無有深紅有浅絳亦有白者
一重至八重爛漫極美桃類狗桃花遠勝
之東人称為花王ト云ヘリ清客ノ我邦ニ游
ヲ者生々盈尺ヲ貴シ旅舎ヲ賃シ旅舎ヲ
桜ノ産地ハ吉野ノ外ニ処々ニ多ク自生ノ地甚ダカラス濃州ノ鎌ヶ谷ノ如キ最
モ多シト雖モ固ヨリ僻境辺谷ニ属スルヲ以テ其漸ク世ニ知ラレテ雅客ノ歎賞ヲ
乗ルニ至リシハ蓋シ猶百年ヨリ出デサルベシ其以前ハ只山人ノ伐リテ薪ト為スノミナリシ或説信
州安曇郡タバシ子ハ全山皆桜樹ノミニテ他木ヲ雑ヘス故ニ其地ヲ名ケテ桜ト云ヘリ又聞キ
甚タ眺望大ニ吉野ニ勝レリト而テ歌ニ聞キモセズ、タバシ子ハ、ルヤシトハ、ト此歌並ニ此説ノ虚実ヲ詳ニセズ、吉野ノ外モ、カヽル処ヲ本ニ近傍ノ人ニ訂サント欲スル間リ紀州
群那賀郡根来山ニモ桜花数千株ヲ産スト其地モ亦遥ニ近傍ノ遊客ヲ引リニ非ス
リテ盛ンニ世ニ顕ハレテ無シトニ鳴呼
争花モ亦産地ニ因リテ幸不幸アルカナ是レ
恰モ賢人君子ノ僻地ニ隠シ遁世ニ屏テ世人ノ

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12
ガラス使用

絶ニテ其德ヲ知レル者無キニ似タリ惟フニ此他諸
国ノ櫻源尚多カラン須ラク好遊多聞ノ士就
キテ質スベシ伊豆大島ハ丈ノ松ハ其実甚大
ニシテ食用ニ供スト云ヒ又北海道ニモ桜アリテ随必山中ニ自生スト方言
「カリンピ」ト呼フト「松前為ニ」云ヘル西部オタ
海崖絶壁ノ地ニ桜樹海上ニ臨ミ咲花ノ時ハ
花影海ヲ照シ景色云ハンカタナシト曼シ磯
山桜アリ琉球ニモ固ヨリ櫻花ヲ産シテ人賞
向木草ノ國説ニテ明瞭ナラス又朝鮮ニモ此ノ
花ヲ産シ奈木ノ方言アリト云フ亨保年朝
青泉ノ紀行ニ垂絲櫻枝如金楊ト記シテ最
之ヲ賞シタリ蓋シ仆ノ珍シノ者ニト見エ

又柏若水氏ガ李栗郭ニ向ハシシ若ニモ對州ニテ見
タル桜ノ奇ヲ説キテ彼ノ国ノ産ハ其花實ヲ食フ
ヲ云ヒ其実ヲ食フノミト云ヘリ近日彼ノ邦遊
歴ノ士ニ就キテ尚質シ
花暇ハ早桜アリ晩桜アリ毎歳各地ノ寒暖ニ
拠テ庭園ノ差アリ東京ノ如キハ大約四月中旬ヲ
以テ其期トス吉野山ノ高低ニ因リテ開花ニ遅速アリト雖モ大概三月廿五日
ヨリ四月十日ノ間トスト云ヘリ三月桜ハ一名ヒ
桜トニフ早櫻ニシテ旧歴ノ正月ハ已ニ花ヲ着ク小
花單瓣紅色或ハ淡紅此ハ東琉球種ニテ寒
緋桜ト呼ブト又云ヒ氏ノ桜ハ伊豫和気郡山野村
龍穏寺山中ニアリ此ハ旧ノ正月十六日頃ニ花ヲ開ク故

十六日桜ノ名アリ即チ会櫻ナリト晩櫻ハ桐谷桜ノ重瓣ノモノニシテ花稍小ニシテ諸花ニ晩レテ開ク故ニ晩櫻ト呼ブト咏ゼリ冬桜ハ冬月モニ花アリ不断桜ハ葉常ニ花期ノ外ニ時ニ狂花ヲ着ルモノニシテ駿州白子ノ観音堂前ノ大木名ヲ寒桜トイヘリ其他四季咲ノ桜ト呼ブモノモ亦此ニ入ル

花形ノ歌ニ種異品ハ殆ンド千瓣ニ及ブモアリ大小單複アリテ花形稍カハリ色モ又濃淡アリ單複アラテ花形稍カハリ色モ又濃淡アリ單複アラテ花形稍カハリ色モ又濃淡アリ單複アラ

ニヒラズト雖山間寂寞ノ旅情ヲ慰ムヘキモノアラ
即チメザクラ或ハコヒザクラ又ハサクラト呼フモノ是ナリ
花色ハ謂ハユル「サクラ色」ヲ以テ其本色トスレトモ
淡紅アリ濃紅アリ又紫
桜アリアサギザクラアリ黄褐或ハ黄
緑ニテ其色ハ斉ナラズ大抵ハ花ニ千辨單辨アリ
又松ハヘムレニヒラズト雖モ花ニ千辨單辨アリ
五色桜ハ紅白濃淡相交リ開クモノ羽洲ノ松
ニアリト凡ソ桜花ハ其香気無キヲ遺憾トス
ルトモ又ハ日ニ匂フナド形容尤妙ナリ
ナリ尚ホ雪ノ朝月ノ夕ニ匂フナド形容尤妙ナリ
野嵐山翁ノ歌ニ大原ノ寂光寺ノ花ハ
コノ外ニ希ナル匂ソフカキトハノ香桜ニモ亦千

雑ノ單辨アリ
ハノ樹ノ効用ハ其材質堅牢ニシテ几案諸器
械ヲ造ルニ良トス就中彫工ハ此ノ板材ヲ
必要ノ料トシ伊豆ノ産ヲ上品トシ駿州ハ肌理緻密ナラズ大鳥ハ歌
中品トシ野州ハ肌理緻密ナラズ大鳥ハ歌
髪ナラン共ニ下品トス扇ハ本他木ノ材モ混ジ入レヘシ
ヘトモ亦他木ノ材モ混ジ入レヘシ
ハノ花ヲ記載スルニ先ツ松笠ヲ達
箱ノ櫻品アリ山崎尚育翁ノ桜辨アリ富
田鈍永ノ桜顔育桜ハ松山二翁ノ説ニ據
リ更ニ他ノ諸説ヲ質シ又花形ノ図説モ
多ク掲載セルモノニシテ亦此花ノ一知ト
ナルベシ其他桜花図纂二巻ハ寫生著

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12
ガラス使用

色頗覌ルベキモノナシ
近歳青山春夢ノ翁ノ桜史新篇世ニ出ヅタリ実ニ
氏ヨリ第一ノ巻ヲ裏ニ
已等ノ説明シ以テ花ノ故事ヲ并解シ考証
精覈最多ク攷ニ供スベシ又桜花ノ詩歌ハ元
ヲ極メテ多シ記誦ニ勝ヘン夫ノ荒川常者
ノ一枝百絶ノ如キハ固ヨリ拙陋誦スルニ足ラ
ズ但桐陰宵雑話ノ桜花ニ関スル一絶アリ頗ル
ケロモ集ハ未之ヲ知ラズ
○槲葉集
春月草花ノ愛玩スベキモノ極メテ多シ槲葉ハ
其一ナル花時人家ノ庭際籬辺ノ粧飾ニ充ル
欣賞スベシ故ニ邦人多クノ和歌ニ詠ゼリ

異名ハ画影草（尾州故下方言）鏡草（上
ストシ）勢州故下方言）漢名ハ槲葉花洋名ハ
ここまでは Japonica
四日自然科目普
ノ字ヲ用ヒキ此ニ属ス名実ト
食用ノ刀ヒナリ
和名抄ニ款冬ニ名虎鬚和名夜未不々木一名夜
未呼木万葉集ニ山吹花又扉頼本草ニ款冬
和名也未不支トアリ槲葉ノ夜未不々木又夜
山ツキヒト呼ヘルヨシ通ニ山吹ニ款冬ノ字ヲ当ル
未布木ニ混ジテ誤ルヿナカレト見立朗詠集ノ款冬誤綻暮者

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12
ガラス使用

凡ノ句モ亦山吹ナリト款冬ノ名義モ款ハ至レノ義ニテ其極寒ニノ候ニ至リテ氷雪ノ底ニ蕗ノ苞ヲ抽ンスルカ故ニ附リタルニテ又鑽凍ノ名アル所以ナリ其花ハ園ヨリ観ルヘキニ非ス村瀬栲亭カ春日田家ノ詩ニ児童爭摘款冬花ノ句アリ是レ蓋シ我邦款冬花ノ詩ニ入リタル権輿ニテルヘシ

棣棠ハ全棣棠又黄棣棠麻葉棣棠其他數名アリ此花諸国山中随処ニ自生ヲシ名東方名ナル山城井出ノ産ハ單瓣ノ常品ニシテヘテハ絶エタリ方今花戸ニテハ景大ノ千瓣花ヲ作出シ呼ヤリ花低猶晩シ常品ハ五瓣多雄蕊ニテ此種ハ此ト反ス品ハ五出シテ其実ハ五子アリ千瓣ハ実ヲ結ヒ子ヲ播ケトモ希ナリ凡ソ花ノ房ヲ種ニシテ千瓣ノモノハ向ヒ希ニ実ヲ結フト雖モ多クハ少シク且ツ花ハ総テ重弁ニシテ艶ナルヨリハ單瓣ノ淡雅ニシテ却テ愛観スヘキ者アリ又一種ノ矮小ナル者ハ大ニ千瓣ノ如ク山吹ノ若キハ大ニ千瓣ノ如ク山吹ノ若キハ大ニ千瓣ノ如ク山吹ノ若キ

等ニ桜葉ハ金色千葉而花繁單瓣者金盃水ト見エテ如菊或円如小球ト云ト変種ノ千葉ノ事ヲ桜葉ト称シテ単瓣ナル者ハ却テ其一種トセリ又生来祇三氏カ山吹ノ葉ヲ採リ見ヲ花ノ形色ヲ記シ之ヲ朝鮮人李東郭ニ示シテ氏ノ記ノ名ヲ山吹ト呼ヒ其酸醾ナルカ山吹ノ葉ニ似テ単瓣ニシテ桜葉ハ色淡紅ニシテ酸醾ト見シハ誤ナリト自カラ別物トセリ○西洋ニハ原来桜葉無ノ性ヲ我邦ヨリ傳植セシヨリ以来桜葉ハ従来ノ植物ヨリ変ヘルカ如シト云ヒ又ツンベルヒヨリ以来桜葉ハ従来ノ植物ヨリ変ヘルカ如シト云ヒ又ツンベルヒ氏ハ一新族ナリトシ創定セシ之ヲ名ケテ Prunus Sieboldii ト名ケ又ツンベルヒ氏ハ桜葉ヲ以テ日本ニ

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号　本別18-12

ガラス使用

仕リテ野ノモノハ多クノ物ヲ枕ニシテ如ク目撃セシト云ヒ又ノ地自生ノ傳植ルモノハ日本ニテハ現ニ之ヲ培養スルトモ蓋シ原来ハ野生ノモノト見エ且ツ国本草家ノ説ニ攪ラモホル野ニ自生スト云ヒ也ハ花ノ熟ルノ見ルヿ無シ然レトモ江戸本草家ニ長崎ノ産ニテ甚実ノ着ケルモノヲ曽見セシヿアリト日本ニテハ粧飾樹トシテ栽ウルニ花実ト雖傷痛スル事無シ我ニ比スレハ最多ノ繁栄ヤリ殊ニ愛玩ノ千瓣ハ其花攅簇シテ梟々タル枝条モ花ヲ掩ヒ叡立スルニヨリ其品ニ三種アリ之ヲ交互雑栽シテ園中ニ老葉ヲ看シ或ハ四維植ヒテ籬トナシ或ハ環

環栽シテ假山ノ繞ラシム其第一種ハ大花ノ單瓣
ニシテ第二種ハ千瓣ニシテ單瓣小
花ノモノヲ第三種ハ橅葉花ハ苦特之ヲ摘採
シテ藥用ニ供セシトニシテ和ラ
瘡癤出血ヲ婦人血
又益中ノ體ヲ以テ花鳥
或ハ小物體ヲ造リ酒或ハ茶ヲ盃テ
浮ベテ宴半ノ一興トスル又
惠種ノ景美ノ品即茲ニ
色ノ精圖ヲ載スヨリ
がりしテ俗ニ他種アルヲ人ヒト知ラ
ずしテ俗ニ傳須ク世人ニ欣賞セラルニ
都鄙常單瓣ノモノハ
初メニ至リテ始テ輸
送ヘセリ又白斑葉

單瓣花ノ説本ノ余筆等創見セシハ猶僅
ニ數年前ニ出ヲかんさうニシテ
マキシモーワッチ君ヨリ
圭齋線葉説ニ橅葉ハ支那ニ自生ス
リ余ハ之ヲ箱館ニ自採セリキルチウン氏ハ一千八
百四十六年北支那ニ於テ之ヲ採出シ又オルドン公
氏ハ長崎ヲイン氏ハ琉球サバチエ氏ハ横須賀ニ
テ採得シタリト云ヘリ前ノウサッテ氏ノ説及ビ
説ヲ俤見スレハ洋人モ頗ル此花ヲ珍賞スル
如シ覚エス本邦人ノ如賞措カザルモ亦宜ナ
ラズヤ

○山茶花

山茶花ハ本邦ノ名産ニシテ諸國ノ山林ニ自生頗ヲ夥

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号　本別18-12
ガラス使用

緑木ヨリ冬日群芳凋落ノ候ニ方リ松柏ニ伴ヒ歳寒ヲ凌ヽテ其花ヲ綻ハシ以テ三春ニ亘リ大ニ人目ヲ悦ハシム故ニ陸放翁ハ雪裡開花劇春晩世間耐久孰如君ト詩ヲ東坡モ嫩紅丈雨半開ノ句アリ

(氏樹ハ自然科目山茶科ニシテ林氏第十六綱第五目ニ係ル雞冠甸ハ(Camellia Japonica)ヨリ元来山茶ハ欧洲ニ自生無ク而シテ唐ニ僅ニ一千七百三十九年支那ヨリ舶賚セシカ其花ノ美麗ニシテ葉モ亦暗緑光沢アリテ善ク玩賞ス可キヲ以テ人亜細亜ニ遊歴シ又四維四面カノ為ニ大ニ彼土ニ蕃殖セリト云フ四維ハ人名ニシテ傳植セシ者ヨリ云フナリ)其品ハ単瓣紅花即氏花ノ原種ヨリシテ

一千七百九十二年ニ至リ白花及雑色ノ種ヲ支那ヨリ齎シ又日本ヨリモ陸続舶送シ欧洲ニテハ重弁ノ花ヲ貴ヒ単瓣ノ花ヲ賤ム

普通ノ椿ノ字ハ「チンチン」ノ木ノ下ヨリ「ツバキ」ノ花ハ専ラ春月ニ開ク故ニ茶盞ト氏字ヲ仮用セルモノトハ見エ和名抄ニ椿ハ豆波木トアリ又海石榴ノ名モ其手ヨリ氏名ハ日本延喜式ニモ出ツ或云「チンチン」ハ古名「タマツバキ」ヨリ改メ相混セルヨリ或ハ然ラン

○山林自生ノ品ハ氏花ノ原本ニシテ単瓣紅色ナリ壮人視ヲ以テ貴ヒ之ヲ「ヤマツバキ」ト呼ビ花形稍闊ク色モ亦稍濃ニ似タレドモ花形稍闊

躑躅花ノ名アリ
○此樹ハ多ク暖地ニ産ス北寒境ニハ育セス伊
豆等ノ諸島ニ多シ○ツバキト呼ブ
○其種子ニ因リテ此花色態異品極メテ夥
シク枚挙スルニ勝ヘス従テ其名称モ亦極テ
夥シ地錦抄ニハ百餘種ヲ載セ花譜・花壇
大全・花壇綱目等ニハ其品種ヲ多ク掲ケ
又近来編成セル石川植物園草木区説
ニモ詳ニ之ヲ記ス就中名ク有名ニシテ尤愛
玩セラルヽハ白玉ツバキ・ヲクタウツバキ・
椿ハツバキ・花史・花鏡・群芳譜・植物名
実図考等ノ書ニ載セル所見ルヘシ
○一種ヲリツバキトヨブモノアリ葉常ノ山茶花
ヨリ小ク且ツ薄シ

特其雄蘂ノ連リテ一ツノ如キ雄蘂ヲ為ス
ヲ特リ此種ハ其雄蘂片々多ク離レテ散落スル
雌蘂ニシテ亦愛観スヘキ品ト為ス是晩山茶ヨリ西
京都屋川ノ地濃州金井辺ノ南宮山ニモ亦アリト云
○ヲクタウツバキ一名ヲクシロツバキ又ハ西来猩紅ト
緑ヲ花ニ白共ニアリ是レ漢種ニシテ即チ鶴
頂茶ヨリ洋説ニハ此種ハ香港ノ産ニシテ羅甸
ハ Camellia Sasanqua ナリト
○往来清人ハ大ニ我邦ノ山茶ヲ賞玩シテ時ニ
崎湯ヨリ齎シ去レリ漳浦県志ニモ日本茶
近歳自日本来者今浦中盛有之有方有円
有六角其色有紅有白有淡紅有

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12
ガラス使用

紅白相間初到特價十金ト云ヘリ鑒錄摠詩稿ニ白洋茶ノ七名アリ「ミラるつばき」ヲ詠セシモノト見ユ

○又「ナツバキ」一名ヨヤラノキト呼ブモノアリ諸国ノ深山ニ生ズ花ノ形ハツバキニ似メリトモ別樹ナリ

○椿ノ木ニフヒノキヒバヤドリキト称スル一種ノ寄生ス

ルモノ有之ヲツバキト唱フ是ヒ山茶ノミニハ限ラズ他樹ニモ亦稀ニ生ズ注々諸国ノ神社寺院ノ境内ニアリテ人ノ観テ奇トスルモ是一種ノ寄生ニテ細ナル花実ヲ着クルモノナリ伊勢鈴鹿郡ニ椿ノ羽神ト云フアリトカ

○又山茶ノ枝ニ大サ桃ノ形ノモノヲ生ズルアリ信州ニテハ之ヲツバキモチト云又ホヤリ名アリ是一種ノ寄生

○山茶ノ実ハ椿円ニシテ桃ノ大サホトアリ外殻ハ厚ク硬ク緑色ニシテ暗紅ノ帯ヒ者ハ内ニ三個アリテ三稜ノ容ル

○山茶ハ惟其花ノ美麗ニシテ観賞スベキノミナラズ其実ハ又有益ノ油ヲ採ルベシ此油ヲツキノミアブラト云カタシアブラシバ長州ノ方言ナリ和方ニ青油トシ又食用トモナスベシ即薫栗新語ノ山茶油ニテ此ノ土ニテモ本会ニ良ク開トナスナリ朱因ニシテ製スルニ用ヒシバ翠麻油ニ優リ帰人髪粧ヲ梳ルニ雑キニ此油ヲ附ケシ解ケ易シ又刀剣ニ塗ルニ佳シ」其葉ハ茶葉ニ似テ稍大且其葉ニ代ハ飲用スベキカ改ム

山茶ノ名アリト云六信縣老三ハ嬭葉可愛食アリ然レニ山茶ノ名モ紛ニハ山ノ字ヲ省畧シテ直ニ海榴茶、串珠茶、南山茶、茅ト呼ブニ至レリ其材質ハ堅硬ニシテ木理緻密ナリ燒キテ炭トナセハ諸木ニ優レル枝炭・白炭ト呼フモノモ此樹ノ枝ヲ燒キテ製ラル所ト云其灰ハ染料ニ貴用セリ

○茶梅

此花ハ多ク人家ノ庭隅ニ栽エ玩ヘキ常緑喬樹ナリ藤筑前洋人ケンペルが氏ノモノアリトイフ羅甸(ささんくあ Sasanqua)ト云フ園圃ニハ三四種ノ大約百年前ニ我邦ノ植物ヲ採集セシ時新宮モン名ニテ

テ和名ノカゴシノ種名ヲ其侭ニ用ヰタルナリ赤茶料ニシテ林氏十六綻五月ニ盛ス樹ノ高サ丈餘ニ及ヒ葉共ニ山茶ニ似テ長橢圓尖頂ニシテ其面深緑光沢アリ花期ハ冬ヨリ春ニ亘リ衆芳凋零ノ間翠然タル雪艷霜ヲ凌キテ人目ヲ怡ハシム故ニ花譬百咏ニ剰ス群芳破凍開ト云ヘルカ如シ花形ハ五瓣但其平開ムシロ反ル如キアリテ下ニ若干花子ヲ攅ス山茶ニ異ナリトス瓣ニ大小アリ其色純白淡紅、濃紅雪白又紅白交錯シテ或ハ線條アリ或ハ點アリ其異色変形甚タキシカシテ一ノ方言モ無ク往ヲ徴ニシテ一ノ葉クルニ勝ヘズ地錦抄、花壇大全等ニ載ルン所ノ図モ極ノ

ラ多シ○此茅ヲ擣採シテ第二代フベシ或説ニ支那ニテハ此茅ヲ製シ曽国ニ輸シテ高價ヲ得ルトゾヘリ
又中陵漫録ノ説ニ此茅ヲ擣シ採リ茶ノ如クニ製シ或ハ入レテ佩ノ如クシバ香気アリ世人此ノ雑香ヲ之ニ用ヒルナリ世人此ノ雑香ヲ支那ニテ此ノ實ヲ称シ気アルコトヲ知ラスト記セリ
煮テ搾リ取リタル油ハ異常ノ香気アリ且ツ葉ヲ乾カシテ茶ニ雑フルトハ洋説ニモ見エタリ實ハ山茶ヨリ小リ其殻三裂シ弁油ヲ搾ルベシ

○獐牙細辛

獐尾香首ノ交ニ益ス

フクジエウ

其花ノ雅致愛玩スベキハ雪割草一名ユスハマサウ」「スハマサイシン」「スハマギリ」ナリ又「サンカクサウ」河州「カウライゲ」飛州等ノ方言アリ漢名ハ獐牙細辛

Asarum sieboldii Miq.

ヲモ薬料第十三経第七目ニ係ル

産地ハ佐渡越前ノ弥彦山、豊州、信濃、伊勢ノ朝熊山等ノ深山濕地ニ生ス葉形ミナ心ニテ頂ハ紫色長サ二寸餘一根叢生ス多キ者ハ多或ハ少ク其色深緑大サセハ多或ハ少ク其柄青紫前ニ予リ葉間ヨリ数梗ヲ抽キ上ニ各一花ヲ着ル大サ四五分其大ナルモノハ寸餘ニ至ル紅白紫碧ノ数色アリ又淡黄ノ帯フル者白花紅蕊ノ者或ハ細擘ニシテ花頂ニ紅ノ帯フル者アリ苞頂尖リテ三片ナリ亜鞘ニシテ其莟

椿四六八片單瓣菊花様ヲ為ス多雄蕊一雌蕊ト
又房州ノ山中ニハ大花紺色ノ者アリ其形ト色トニ因
テ花戸ノ名称甚多シ実ハモ莖ノ子ニ稍似タリト
椶ろこバヨシ心易シ生
葉ヲ生ジ旧葉ハ枯ル又一種葉頂ノ尖レル者ヲ
ミスミサウト呼フ諸国ノ深山ニ産ス尾州東谷
山ニ生ズルモノハ稍長大ニシテ葉背紫色花
稍相似テ白色ヨリ紅花ノモノモ亦有リ熟州
坂本山朝熊山ノ産ニハ葉ニ白班アルモノアリ
獐牙細辛岡譜ハ其岡願ル拙キ故ト牧載
セル品椶極テ多ク且着色モヨクタレバ亦参観
ニ便リ但撰者ハ詳ナラズ
氏ノ草ノ雑甸戸子モ子れへバケセノ種名ヘル

ケカヒハ肝草ノ義ニシテ
因テ肝臓ノ官能衰弱
疝痛搶心胸病ニモ
効験ノ急ノ意ニ部
弐用ヰルヿ無シ

○迎春花

迎春ハ和名ニシテ
梅ノ異名ニシテ全物ニハアラズ
金帯 秘傳花鏡 黄梅ハ蠟
雞甸ハ 漢名ノ黄梅ハ
ナリ林氏ノ第二綱第一
其和産アルヲ見ズ美
盖シ音時舶載ノ漢種ナルベ
シ人家往々之ヲ庭
除ニ栽培セリ亦ハテ早ク着

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12
ガラス使用

月ノ如ク黄ニ咲ク小ナル花ヲ着ケル木ニシテ其幹叢生シ高サ四尺或ハ七八尺ニ及フ花ヲ着ケル枝ハ連翹ノ如ク下垂スル者モ前伍ニ黄花攅簇シ形漏斗状ヲ為シテ六列ニ長サ五分許ニ左一嶋葉アリ梢ニ新花トシテ陸続開ケ後葉ヲ生ス枝ハ方形ニシテ枝葉共ニ襍生シ葉ハ一桐ニ三小葉ヲ綴リ金雀花又銭掃ヲ帚ニ箱似ヲ厚ク平縁ニシテ先ハ狠鬚ヲ生ス一種アリ枝伸シテ地ニ着ケハ根ヲ生シ繁殖スルヿ甚シ琉球ノ産ニシテナツウラバイトモウキウウバイトモ琉球ノ意ヲ取ルナリ紀州方言五月梅五月黄梅等ノ名アリ花戸ハ誤リテ黄花ノ木香花トスヘカラス又迎春ノ扁ニシテ溪名ハ探春花等ヲ補遺志黄馨 小山畫譜 金梅 聖南通志ナリ 植物名

牡丹 岡考ニ此岡ヲ出タリテ金雀ト記セリ 緬甸 琉球ヨリ舶載ス枝葉矯柔ニシテ其葉四時凋マス籬辺ニ植栽スルニ堪ヘタリ享保ナリ

〇山茉莉 此樹ハ加利波乃美本草和名佐和久美ト云ヘリ知波之加美、輔仁本草ニシテ世俗ガンピウト呼フ 緬甸ハ Carissa Opaca Stapf ナリ

享保年間朝鮮ヨリ傳播植栽シ又南京種モ舶載セリ和産ハ伊賀ノ産ニアリトス枝葉對生シテ頗ル楓ノ如シ葉形尖頂楕円ニシテ其葉

ノ来出テカル先ニ早リ枝上毎節ニ鮮黄ノ細花ヲ
攅ケ簇ヲテ開リ瓶中ニ挿テ愛観スヘシ四瓣四
雌一雄性基未ニシテ林氏第ニ目山茱萸科ニ
係ル仮実ヲ結ヲ因リ長クシテ紅熟スル古説ニ茱萸
ヲ「グミ」訓スルハ非リ和学訪材ノ諸書ニモ此
説ヲ載テ茱萸ヲ訓セリ其漢土ニテ棗
陽梨梅ニ茱萸ヲ戴クトハ英茱萸ノコトヲ云ヘル
ニモアラスルヘリ

○紫雲英

紫雲英ハ「ゲンゲバナ」「ヨギヤシ」備前
讃燈花筑前「カンバナ」全「帰雁ノ候ニ此ノ蕊
ヒバ式花モアリトス」

子園遺傳

紫花児高濂藝花譜

狹児花 嘉樂府云翔搖植物名実図考雞爾ハ
(Trifolium) ニシテ林氏第十
七経第四目ニ扁ス式草ハ田間路傍水湿ノ
辺ニ多シ秋月苗ヲ移シ地ニ播シ蔓延繁
殖ス農家ハ肥料ニ充ツルカ為ニ之ヲ下
種ス葉ハ不育鰭魚ニシテ清明穀雨ノ候
葉間ヨリ葉梗ヲ抽キ蝶形ノ花ヲ着ケ其数
花簇生シ園壇ニ栽テ蔓延ノ態ヲ為スヘリ
ロンゲサウシノ名アリ氏花ノ窟ハ香郊芳草
蒙茸、紫雲殿ト人目ヲシテ憲賞倦ケ
知ラサラシム又種白花ノモノアリ氏草ハ蘋ト
ナシ食フヘシ詩ノ陳風ニ卬有旨苕ト云ノ心ハ
乃是ニシテ陸放翁ノ句ニ自假風爐煮小葉

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12
ガラス使用

トヤリ東地ハ豆莢四月且ツ槐牙細而豊ト咏シ又
元脩菜トモ賦賦トリ朝ノ如リ漢土ニ粤ヲ食
用トシ細葉此菜花可食ナト云ヘリ又昔時
ノフスベシリサシハ亦當此菜歟ヲ要ニテ今ノフスベシ
ハ古ノソボロシ」ナリトリ

○菜花

菜花モ亦春卿眺望ノ一勝景ナリ此菓菜ハ
蕊台即菜油ニシテ又此菜ノ中心ヨリ長ク抽
出ツル台ノ其花未開カサルモノヲ摘シテ食
ヒ甚ヅ美味佳ナリ其莢ノ軟ナルモノモ
亦良シ大莢大蕊ハ帰ツ帰ツ亦種ヲ取ル
品アリ詳ニ油菜録ニ載セリ

澤ノ菜餅トシテ奉賢縣志ニ肥料ノミナラズ飼
魚皆良シト見エ菜花ノ候春服帰詠ルシベ金
波風ニ靡キ香気實ニ撲ヲ一年ノ好風光駘
蕩々人意ヲシテ快通ナラシム

○玉蘭

「ハクモクレン」ハ漢名玉蘭ニシテ雞甸ハ Magnolia
Conspicua Salisb.「コンスピキュア サリスブリ」開波「イトコヤキザクラ」
ボシ」ナリ和名又「ハクレン」トオホユ
第十三經六目木蘭科ニ係ル此樹高サ二三丈ヲ
ノ枝條ヲ含ケ春月早ク蕾ヲ生シ清明前ニ其
花ヲ開ク九瓣形木蓮ニ似テ稍大ナリ白色ニ
シテ微紫ヲ帯フ名ヲ玉蘭ト云ヘリ又紫玉蘭
ト云ヒ

ヲ洗ヒ清潔ニシテ麺ヲ拵キ麻油ヲ入レ煎テ食フ味極メテ美ナリ或ハ醤油密ニ浸スモ亦可ナリ其製法ハ牡丹ニ全シト秋傳花鏡ニ見エタリ

○木蘭

此樹モ亦人家ノ庭園ニ栽エ其花ヲ愛玩スル者多シ葉喬木ニシテ冬モ久ク良ク和名抄ニモリレンシ又モクレンゲト呼ビ漢名ハ木蘭又木蓮羅甸ハマグノリアト呼ビ原来漢産ナリト雖モ我邦ニ傳植シテ諸国ニ繁殖セリ支那ノ湯陽江中ニ島アリ木蘭多シ故ニ木蘭洲ト称スル此材ニテ造リタル舟ハ詩人ノ所謂木蘭舟ナリ此樹ハ幹枝業ニ生ジ高サ丈餘ニ及ブ葉ハ微鋭頭倒卵形ニシテ大サ凡ソ六寸面光沢アリ穀雨前枝頂ニ花ヲ開ク形蓮花ノ如シ九瓣其瓣ハ蓮ニ比スレハ狭クシテ厚ク外面濃紫内部ハ白色ニシテ淡紫ヲ帯ビ数条アリ又淡紫褐色ノ花心ヨリ抽出テ花軸ニ繋着ス雌雄ヲ具ヘ此雌蕊ハ花未開ノ時ニ当テ雄蕊ニ先ダチ開キテ雌蕊ヲ圍ミ雄蕊ハ蕚ニ圍ミ香気芬馥タリ

○辛夷

辛夷ハ花未ダ不之波ラ之加美和名抄庇未阿良支介ニシテ通常「コブシ」ト呼ビ又「ユボウシ」訛「ユボウシ」ト呼ビ又「ヤマフブシ」日光「ヒキザクラ」前刀ブナノキ」木曽「ヤマウクレン」北海道等ノ数名アリ濃州モ木曽ト本草拾遺玉匙花暦百詠猪

心花秘傳花鏡望春 等其他異称亦多し羅
甸ハ Moluccella ナリ亦落葉喬
木ニシテ高サ三五丈
ニ及フ諸国ノ山中ニ自生ア
リ夏月既ニ萼ノ着ノ白毛茸アリテ形等
頭ノ如ク香気アリ香嚢ノ料ニ配シ又漢薬
ニ用ユ羽翼春落羽前後其葉ニ先タチテ花ヲ
開ク六瓣白色紅條アリテ愛玩スヘシ香モ亦
馥郁タリ花褪ルノ後ノ萼ノ出ス形実
頭倒卵円ノ為ニテ互生ス実ハ秋熟シ形長
房ノ為ニテ人ノ拳ノ如シ故ニ此ノ名アリ
金鼓ニシバ殻折開シテ紅子ヲ吐出ス北海道
ノ土民ハ此樹皮ヲ煎服シテ寒邪ヲ除シ
又頭痛或ハ瘡腫ノ癒ス花モ亦諸瘡ニ
効アリト云フ又此材ヲ以テ椅子或ハ棚等ヲ造
ル質白色ニシテ密ナリ枝ヲ折撓スレバ善ク治ス
或ル書ニ蜀ノ峨眉山ノ青島ニ深紅色ノ辛夷
アリ方言ニ紅葉ト呼フト漢説ニモ舜紅ニ
ヲ杜鵑躑躅ノ如キモノヲ紅花蕊ト云白樂
天ノ紅辛夷ノ詩ニ
さくハ盖ヲ昔ナルベ
シ一種「ヒメエビシ」ト呼フモノアリ信
州濃州等諸国ノ山中ニ自生ス小木ニシテ葉
薙木ニテ高サ纔ニ七八尺其株傍ニ又多
科條ヲ叢生ス花形ハ常品ニ稍相似タレト
モ細瓣十二三ヨリ二十ニ及ヒ白色ニシテ淡
紅ヲ帯フ葉名千葉辛夷一名重葉

辛夷　肇慶府ニも罹旬名ハ Magnolia sp.
Nitida ナリ此種ハ
義ハ幣ノ如ク一枝ニ
ルヲ以テ名ツケシナリ
ハ香色ヲ具ヘテ頗ル愛玩ス
○紫荊花
此花ハ人家庭際ニ多ク栽ス花ヲ賞スル一種ノ
落葉灌木ニシテ和名ハ「ハナズワウ」「スワウバナ」「カラクワ」濃州鷲峯山ニハナムラサキ
ト称スル者アリ枝葉ハ此条金花珞珊漢名
ハ紫荊ニシテ昔ノ人ノ詩ニ多ク賦スル羅甸
ヨリ林氏弟十経第一目自然科目
豆科ニ屬スル此樹ハ我邦山野ニ自生ナシ

蓋シ漢種ナシ氏　舶商ノ来時ハ詳ナラズ樹ノ高サ
丈餘ニ及ヒ葉心臓形ヲ為シテ互生ス穀雨前硬葉漸ク萌出ルノ頃蝶形花
碎細攅簇シテ枝上ニ密着シ此条ト異ル美
園林ノ觀光ヲ資ケ頗ル愛玩スヘシ支那ニテモ深
紫花艶可愛ナト賞観セル詩章ニ見エ貝原翁ノ
説ニ紫荊花毒アルトアリシハ未親驗ラルニ能
ク蓋シ花実ハ毒アルカ其花枝魚羹及飯飯
中能殺人宜汚之ト云ニ拠レルナルベシ
○梨花
梨ハソノ原ハ亦漢種ナラン
ヲ熟考スレハ亦本邦自生ノモノナリ原種ハ諸
国山中ニ生ル鹿梨ト見エ鹿梨ハ仁ヌナシ

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号　本別18-12
ガラス使用

濃州「アリノミ」両京（河州ニテ「アリノミ」豫州ニテ「アリノキ」ト呼ブハ常ノ利ナリトソ）「ユデナシ」雲州「サルナシ」「セタウ」北海道ニテ尾、濃、信、諸州山中ニ自生アリ梢形ハ梨ニ似テ葉モ亦異ナリ枝ニ刺アリ穀雨前後花ヲ開クソノ形色モ小枝ニ倒リンノ如シ亦相合クシテ有観ルニ足リ其果ハ黄褐色稍円ニシテ形ナレドモ味淡ニシテ食フベシ西京ニテ中元ノ佛供トナス頃ハ栗ノ大サ許トナリ冬ニ至リ熟メ食フシヘテユデナシノ名モアリ此材ハ雄ノ如キ紋理アリ漢説ニ紋理ノ色黄ニ因テ倭櫻桃ニ名ケ和産ヲ貴ブニ因テ日本雞木ト呼ヒ貴籠天井ノ板ニ賞用ルトソ又詩ノ温有樹様々即チ南梨ノ一名ナリトソ梨ノ最モ古キ

者ヲ「ヒメナシ」ト呼フ是レ庶梨ヨリ形轉シ来レルモノナルヘシ

○梨花ハ清明后ヨリ穀雨前新葉ノ間ニ長梗ヲ抽キ五瓣白花ヲ着ク花後果実ハ数十種ノ別アリ水梨、香梨、空梨、細口梨、鶴子梨、半面梨又名雪ニモ誦梨、山梨、壷梨ノ名出テタリ其品種頗ル多シト雖モソノ花形ハ大約一様ナリ、春月千紫万紅紛々研ヲ競フ中ニ特リ梨花ノミ素潔白絶塵冷艶雪ヨリ浄ク歎ニ香雪千株雪ノ如雅名モアリ蓋シ諸国名産ノ地頗ル多シ武州川崎近村又濃州大垣ノ諸村殊ニ盛ニ必々ニ利本ヲ栽ヘリソノ因説ハ日本産物志美濃ノ部詳

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12
ガラス使用

之ヲ載セ置キタリ濮洋ニモ共ニ利ホノ品種最多シ漢ニハ青、黄、紅、紫ノ四色アリト云和名ヲ「カラ」ハ中酸ノ義ナリトソ又「アリノミ」ハ無反語ナリト「羅甸ハ」ニテ林氏第十二経第四目自然科薔薇科ニ係ル

○躑躅花

ヲ、ジ」、漢名躑躅ハ共ニ此花ノ総名ナリ林ノ第五経一目自然科目ヲ南科ニ係ル猶品種最多シ

諸国山中ニ最多キ潅木ニテ花色濃紅又淡紅ア

リ即是紅躑躅ナリ又此第色ノ帯ブルモノ白花ノモノアリ又別ニ「ムラサキン、ジ」ト呼フ者ハ濃紫色ニシテ葉ハ小ク厚ク互生シ即躑躅ナリ又躑躅ノ属別種ニ「キリシマツ、ジ」ハ濮名ヲ厳ニシテ「ヒラ」ト呼フ紅色鮮美人目ヲ射ル故ニ人家庭園ニヲヲ栽培シ又「ヤマ、ジ」ハ濮名ヲ岩躑躅ト云フ花形大小單複色ノ濃淡紅紫白等アリ又「オホキリシマ」ハ刀ンワン、ジ」ト呼フ種第花大ニシテ葉モ厚潤ナリ或人云琉球ノ慶良間島ノ「ケラマツ、ジ」及カン島ノ産ルモノ即是ナリト

○「サツキツ、ジ」ハ杜鵑花ニシテ又山石榴ノ名モアリ産地ハ城濃、信、尾、其他諸州ノ深山ニ

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号　本別18-12
ガラス使用

ヤリ此花ニモ品種順ヒ多シ水車、須磨、源氏染
腰簑等花戸称呼亦一ナラズフノ瓣縞細ノモノハ
「ミ糸きりそ」ト云花壇ニ植目地錦秋ニモ其
園説頗ル詳ナリソノ樹ハ接ヲシテ花ハ不盛
巖ノ如ク齊特ニ盛ンニ多ク告ヲ注続消落シ
花期猶遅ニシテ晩春ニ至ルヲ以テ之ヲ玩ヘシ鴨河ノ畔
ニ鳴鳥ノ涙ノ色ノ紅ニフカクモ染ル岩ツヾジカ
羅漢ノ蜀相魂千年尚恕誰声ニ啼血満
花枝ノ句モ是ナリト見エフノ岩ツヾジトハ云ヘ
モ此花ノ水辺巖際ニ多ク盤生セシヘナリ八
犂書譜ニモ南部ノサツキ、国ヲ出シ日出
蜀中者佳謂之川鶴花内十数層色紅出
心明者花可二三寸層色淡紅ナリト又

心柔哉ノ杜鵑花アリ是漢ニ所謂也時杜鵑ヤ
リ明ラ乱ヲ避ケ朱爺舜水ト共ニ来リ帰
他ノ陳芝山ハ雅名ニシテ年卿ノ尾城ニ在ヲ
陶器ヲ製シ時々唫詠ニ馳リタリフノ遺稿
中ノ杜鵑紅映日ノ題ニ灼々朱顔似将桃
満株輝映日華高ノ句ノ如ク知ル可キ金鶏色染
出猩ニ蜀帝袍ノ句ニ有芝山ノ杜鵑花
ヲ詠ヒ一幅ヲ成リ其白杜鵑ニ風姿脱
盡俗妖嬈不是文君典薛濤蜀帝近
来甘淡雅渾身夏著素羅袍又紫杜
鵑ニ黄鸝啼罷杜鵑啼童装如何咄
不育西此条奪朱花不遇春迎雪
夏任標題ヲリ又英華韻府暦階ニ白

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12
ガラス使用

杜鵑花雙枝紅杜鵑白盤杜鵑
江南杜鵑駒湖山杜鵑ノ名名洋名ヲ挹ケ
リシ氏遊ノ「サツキシノ歌稽ナリヤ未ダ精検ス
ルアタズ

○「ヨトガハツ、じ」ハ品ハ躑躅中自ラ一種ニシテ山
躑躅ヨリハ花葉共ニ大ニシテ葉モ毛普アリ
花ノ着ル景多クハ花ヲ以テ普ク覆フニ至レ
紅紫艶麗急ニ見ヘ寺院或ハ逆旅ノ庭等
ニ栽ウ其色濃淡ノモノ又純白花モノモア
リ

○「キ、ヤウツ、じ」ハ一名「ウホツ、じ」ト呼ブ
シルツ、じ」ト来濃ニ葉ヲ抽ンデ葉ハ
又甚花ニ紅白ノ二色アリ熟州飫野山濃

州養山等ニ産ス
○「ミフバツ、じ」一名「イハヤマツ、じ」「カゴマツ、じ」ヘ
ウタンツ、じ」濃州白花イヌツ、じ」枚上毎節三
葉ツヽ抽生ス大葉本葉小葉ノ別アリ大葉
ハ紀州牟婁郡八鬼山ニアリ中葉ハ北勢坂
本山ニアリ小葉ハ諸国ニアリ色ニ浅紅深紅
アリ

「キツ、じ」「ヒカゲツ、じ」「キヨナヤウじ」「テウセンツ、じ」
メガラツ、じ」紀州「キツネツ、じ」全「ムマツ、じ」キしやりナ
ケ播州漢名石南葉ニ似テおサリ背赤褐色花ハ淡
黄色ナリ此花モ毒アリト云フ台モ未ソノ実
ヲ験セス大和本草ニ「アサギフ、じ」葉ハ大「キリシ
タシ枝ハ蔓ニ似テ長リカ木ヲ攀ハ鵑花ニ似テ

カリアサギ色ナリ春月花咲リ木高カラズ花住ナ
サレトモ赤彩シ大山ノ岩ニカゲツ、じ」ナリ「花ヒ花ノ南ニ屬ス
ノ「レンゲツ、じ」ハ羊躑躅ニシテ常品トハ花葉共ニ形狀頗ル異ナリ和名
「キツ、じ」「キレンゲ」「ムマツ、じ」伊勢「しゃくなげ」朝
鮮「イヌツ、じ」仙台「ウシコ、じ」日光等ノ方言多シ以津々之
毛知津々之今モ是ナリト云植物名實圖考
ノ「擬山虎」ハ赤金シ勢州桑名濃州養山和州吉野山木曽湯ノ
奥山自生多シ稈ハ叢シ蔵ヲ人家庭園ニ粧飾シ
又観ル可キレンゲ「紅花
ノ黄花ヲコキレンゲ「シ
ロ花ヲコキレンゲ「ウシ
ノ花ヲ煎服シ或ハ之ヲ外
用ス

「ウレンゲ」ニ呼ブ枝頭ニ輪狀ヲナシテ攅竹族
ノ改ニ「ニンゲ」ト呼ブ此ノ花ハ毒アリト云傳ヘ髮州
ニテハ鼠毒ニ「キレンゲ」ノ根ヲ用ユト云
數ヲ驗アリト云

○貝母

貝母ハ漢医ノ専用ヲ以テ園圃ニ栽ル者ハ偽物ナリ氏園藝家モ亦之
ヲ培養ヲ以テ業トス雅人清賞ニ供スルモノヲ甚
稀ニ出ツト云フ因テ其形狀ヲ詳ニス
根ハ形貝子ノ聚リ合ヘルガ如シ故ニ貝母ノ名アリ
ヲ出ツト云フ因テ其形狀ヲ詳ニス
即是ニヨリ陸続ノ疏ニ詳ナリ氏名ハ氏今和漢
ノ通称ハナリ然レ共和名ハ「ホトゝギス」ト云ヘリ又和名「ハコユリ」
「ウツセカヅラ」等ノ數名アリ羅甸

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12
ガラス使用

ハゲイトウ Amaranthus tricolor ニテ百合科ナリ
原来漫種ヲ傳ヘテ諸国ニ多ク栽植セシカ享保
年間復ヲ舶載ス琉球種モ亦アリ其後再渡ノ九江
山ニ於テ自生ノモノアルヲ発見セリ春月円茎ヲ直立
スル一二尺余ニシテ細長葉ヲ互生シ或ハ三葉ヲ對生ス
其色粉紫ニシテ細キ巻鬚アリ往々近傍ノ
草ニ纏絡シテ蔓言ニ載ル所ノ亂山貝母ハ
花葉トモニ蔓常ノモノヨリモ大ナリ貝母ハ茎上葉
間ヨリ淡黄花ヲ倒垂シ其形風鈴ニ似テ頗雅
致アリ殿中ニ挿シテ観賞ヤシ

○華下頭業

業頭業ハ郊野随処ニ繁生セル禮草ニシテ
固ヨリ花実中ニ列ルベキモノニハ非サレドモ其

童業、蒲公英ト相伴フテ吾郊ノ點綴スル一風
致ハ希階ヲ有ス故ニ一莫科ヨリ
ツクヅクシ」「ツリ」「フデフクサ」「ヨウシユ」「ツリ」
「おウシユ」ト豫州「ツクシ」「ツリシ」「ヒツリタシ」北海通等ノ
異名甚多シカノ「佐保姫ノ業かとで見る
つくし」ナト詠セル八業頭業ノ美ヲ全シ
り草塩草ニモ立ラレ訓ヤリ其節ヲ包ム
薄皮俗ニ袴ト呼ヘルモノヲ刺キ去リテ食
用トス漢土ニテモ作羹食ヒ又ヨク粕漬
最佳ラ昔シ「ろまんさ」ト
勢州「ツギリサシ」仙台「スイナ」木曽「ツギマツ」「マツ
フキ」「セビシ」北海道「ヨシ」「マツ
サ」ト和本草ノ方言頗ル多シ「ヨシ」薄海草ノ杉ナルモ其ノ草ノ松

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12
ガラス使用

葉又杉菜ノ形ニ似タリ茎ハ細ク叢生シ茹ツテ食ス味ハ飯ニ和テ炊クモ可ナリ羅甸名 [illegible]

荊一名接続草ハ即チ [illegible] 其蔕ハ見エタル儘ニシテ木賊科ニ係ル又河骨ノ蔕ニシテ木賊科ニ係ル又河骨ノ蔕ニシテ詩人魏風ニ采ル所ノ [illegible] 是ナリ

○旌節花

一名常陸ノ筑波山、上野ノ碓氷峠、日光、富士山其他信濃、奥、勢州紀伊諸国ノ深山ニ自生スル落葉灌木ナリ春夏ノ際枝ノ末ニ白色ノ [illegible] 花ヲ開キ其形チ [illegible] 羅甸名 Staphylea pinnata ト称ス海棠ノ [illegible] ニ似テ [illegible] 葉ハ長楕円形ニシテ縁ニ細キ鋸歯アリ互生ス木心ニ白髄アリ又稍大ナル [illegible] ヲ以テ [illegible] ヲ製スルニ適ス [illegible] 花ハ [illegible] 花ヲ開キ [illegible] 花ハ [illegible] 花ヲ開キ [illegible] 花ハ [illegible] 花ヲ開キ

○菟葵

其草ハ紙ニ一ノ草ナリト雖モ春初ニ景早ク花ヲ着ケ其形梅花ニ酷肖シ而カモ早相伴フテ発者ノ稚ケ点ムルモノハ菟葵ナリ之ヲ雪華菟ニ比譬ス

〔ハ雨ヲ蓮ハ兄ニシテ菟葵ハ弟ナリト謂フ可シ和名抄本草和名ニハ皆以倍古礼ト訓セリ今普通ニ節分草ト呼做スハ其花候ニ因リテ名ツケタルモノナラン

ナリ尓雅ニ蒙ハ菟ヨトアリテ疏ニ菟即ち蘢ナリ白如梅華光沢花白如梅華ニ似ルヨリ曰フナラン

瑾樹家移リ来ル盆裏ニ移植シテ愛玩物ノ一トス

○白頭翁

式草ハ諸国ノ原野及ビ山野ニ多生其花頃ル愛スヘキノ之ヲ賞観スルノ者ニ和名抄ニ「久佐」和名ハ諸国ノ方言極メテ多シ「於木奈久佐」

ラニ「大毛何草」トアリ「義昇ノ謎畑ニ大唐ノ天狗ト云ヘルアリサマ花ノ形ニ似タリトテ」「ウナイユ」「宮コゼガイサウ」「ヒナバナ」「チヽコ」下野「カハラケナゴ」「ナヽシ上」仙台「子ニグサ」筑前「じやうトンビ」「モノグルヒ」飛騨「ヨナイゴ」豊前「おトケクサ」野山草「ツチヨツ東

Anemone Cernua ナリ

春月宿根より苗ヲ生ス其葉形仿佛テ差苦
ニ白毛茸アリ春多前庭ニ栽フ茎ヲ抽ンテ二三寸頂ニ
花ヲ着ケテ傍ニ向フ六瓣ニ分裂色黒紫瓣外ニ
白毛多シ多雄蕊ニ雌蕊ニ榮ニテ林氏第十
三綱第七目自然ニ科モ亦科ニ係ル根ハ直根
ニシテ味漢洋共ニ用ヒテ薬ニ充ツ下野ノ空
尾ノ二ハ氏曽ノ大葉ノモノ葉ノモノ葉ノ他花ノ形色
變擅市場多シ花ノ基ニ白色
ノ細毛ト為シ状光翁ノ髪ヲ乱スカ如シ
富老シ心風ニ靡テ終ニ飛散スヲ以キテ
ナリ名ハ漢名ノ老翁髪白頭公野叔文
人等ノ名ニ符セリ順家集ニ霜ニ晒サレツヽ
ヨホヤトハ名ノ如レトモヲみなへしニハ

おはなひきけり又ハ文ヲ白霜歌会ニ杭野狩リ
ねて霜をつたふくず公羽章文ニ
成りやしぬらんと見エタリ白知ル人ニ考節階
音ノ猴群芳猫未研ノ競ハサルニ光ヨケテ悦
好シ花席ニ啓十笑ヲ以テ人服ニ嬌ノ
花ヲ愛ル刑トナスニ堪ヘリ
○蘭花
蘭花ハ十二岩中ニ在リテ幽客ト号シ十友ニ列シテハ芳
友ト称ス国香、香祖等皆皆清馥ヲ珍重讃
美スル所、称ニテ所
沖縄ニテハ特ニ君子花ト名ケリ和漢叹羊人
ヲ通シテ皆之ヲ愛玩セラレ、舞ノ名用編纂
ノ蘭譜ヲ撰シトセラル一春ノ蘭秋蘭

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12
ガラス使用

譜ヲ卷ヲ傳ヲ其圖太精細ナラザルモ尓參考ノ料ニ供スベシ但其撰者ヲ詳ニセス

斯ノ如ク金欽賞セラルヽ園藝好事家ハ生ニ蘭花會ヲ開ケリ一友人ノ話ニ支那游歷ノ際ニ蘭花會アリシヲ一見セシガ其蘭花ハ盆栽最多ク奇品奇種ヲ陳列シ其裝飾体裁極メテ面白カリシト說ケリ今モ音ニ湖畔雜誌ニ此會ヲ記セルヲ見ルニ毎年之ヲ開設スト云ヘリ一友人ノ話ニ支那游歷ノ際ニ蘭花會アリシヲ一見セシガ其蘭花ハ盆栽最多ク奇品奇種ヲ陳列シ其裝飾体裁極メテ面白カリシト說ケリ今モ音ニ湖畔雜誌ニ此會ヲ記セルヲ見ルニ毎年之ヲ開設スト云ヘリ

日下旬西園有蘭花會本邦蘭花會之任有數ナルヲ以テ其會場ハ滿座芳馨馥郁奇勝清景筆ヲ以テ盡シ難シ

繽紛不絕ト又蘭花ヘ云ヘル俗尚墨蘭有

梅瓣水仙瓣菊瓣等名愛者購之甚至一花值數十金屆期各將植家以佳種入會列朱几湘簾磁盆竹柏陳列巡雅遊賞甚衆ト其盛ヲ以テ想フヘシ

此花ノ品種ハ許多アレトモ大別スレハ一莖一花ノモノト一莖數花ノモノトニ種ニ歸ス其一莖一花ナルヲ蘭ト云ヒ其一莖數花ナルヲ本邦ニモ產スレトモ其品ハ漢土ニハ數等ヲ下リ其一花ナル蘭ハ漢土ニハ數等ヲ帶ヒ蘭ト稱スルモノハ我邦諸國ノ山野溪澗處々ニ自生多シ採リ來リテ庭園ニ移シ植ユルニ堪ヘ雅客ノ清賞ニ供ス漢名盆栽トナシテ雖人雅客ノ清賞ニ供ス漢名ハ春蘭鳳蘭花鏡ノ類蘭一名報春先

ラン」「ホリ」「ホリ」「ホリ」「ホリ」飛驒ハクリ辻丸ヲ「ホックリ」備後「ホックリ」栗

国立国会図書館　タイトル『花史雜記』　請求記号 本別18-12
ガラス使用

同「ユクリ」ヒ同等其他方言多シ此根ヲ搗爛シ
稲ノ如クシテ瘡ニ擦附スレハ癒治ノ効アリト
故ニ伊勢ニテハ「アカバソサウ」ト呼「ヒメ」和産ノ
香ヲ蘭ハ統香極メテ微ニシテ治ント無キカ若シ
其香アルモノ偽之ト無キニハ非サレトモ其品甚
稀ナリ予未蘭ノ真品ハ幽香芳馥遠ノ愚
花ニ優レリ我産ノ若キ雅致ハ則玩フヘシト
雖モ一種タルノミ漢種ニテ
花戸ニ唐香ヲ蘭ト呼フモノハ和産ニ比スレハ
其葉稍細リヒ月花梗ヲ抽キテ花ヲ着ノ
葉外瓣頗長クシテ端ハ尖リ色稍緑ヲ
帯ヒ清馨香馥郁最モ愛玩スヘキ物ナリ
但未生ノモノニ異ナリテ甚タ繁殖シ難キハ

遺憾ナリ
○世ニ全校ヒトホルン種ハ一文政年間ノ舶齎ニ
係ル「花梗ヲ斜出シ其花紅色ニテ幽致
愛スヘシト雖モ香気無シ且之ヒノ蘭
ノ一缺事ナリ其葉ハ闊ク斜垂シテ直立セス
先哲ノ説ニ約圃全香ノ如シ蘭ナリトセヒ又
真ノ全校ヒハ其葉勁健ニシテ葉実ヨリ両
ヒノ黄線條直下シ日ニ映シテ全線ノ如シト
アレヘ前ノモノトハ白カラ別種ナル疑全スヘカ
ラス

○花戸ニテ豊歳蘭ト呼フモノハ葉幅寸餘
長サ二三尺好リ直立シ厚クシテ光沢アリ
春月花ヲ開リ紅色細瓣香気稍異ニ

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12
ガラス使用

テ賞スルニ清香芳馥ヲ以テシ雅シ天生ノ
初冲縄ヨリ齎シ来レル山本亡羊ハ之ヲ以テ雁
國草木譜ノ拝
○玉艶蘭ハ（茶ノ蘭ノ会時ノ舶齎ニ係ク）葉形稍
滴リ微ク垂レテ澹
穀田ヨリ其色青白一幹数花ヲ綴ハシ精白
潔清香愈遠シ
○主茶心ノ蘭ハ其葉細長草ノ蘭ニ似テ秋日花
ヲ着ク蕚白玉艶
ノ如シ芳馥人ヲ襲フ
其幹茸モ亦青白色ナリ
○吐噶喇蘭ハ培養珍玩ノ種及蘭譜ニ
○吐ノ他愛蘭数
ニ葉ノ所ノ品極メテ多シト雖モ概ネ深緑
ル能ハス況ヤ之ヲ品
ル能ハス況ヤ之ヲ品隆
盤別スル眼ヲ具ヘ
聞セル二三ヲ雑記シ聊カテ花史ノ資ノ
玩ノ
○明治十七年東京大学ノ植物園ニ於テ横濱
在留ノ洋客某氏ヨリ
苑科異品十餘種ヲ贈ラル
又今茲在留ノ愛蘭家某ヨリ
度産数十品ヲ贈ラル
見サル所ニシテ皆
蘭譜編纂ノ良材料トナシ
○蘭草、山蘭、沢蘭等ノ若キ芳草ト葛花ヲ賞

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12
ガラス使用

○桜草

此草花ハ諸国ノ原野ニ自生アリ武蔵ノ国ノ原美濃ノ笠松辺、柳津ノ原ニハ最多シ信濃ノ小野ノ山中ニテハ方言ニ「サルマバナ」ト呼ブ花形筒様ニシテ雛ハ五裂シ雛頂鋭凹頃ク桜花ニ似リ其色ニ赤、白、各濃淡アリテ雛ヲ飾ル縁ノ平円ニシテ鉄刷毛ノ状一様ナラズ其婦無毛ニシテ茎ハ花ノ下ヲ接ス況シテ庭園ニ培養シ特ニ益義ト為シ月ニ至レバ花ノ大ニ艶美ニシテ愛スベキヲ以テ愛玩ノ人ノ多キ新シ競フ改良ノ苗ヲ求メ自壇ニ新奇ヲ為ス事ヲ喜ブニ至リ先輩

久シ蘭ノ属トハ古人モ生々混合セルヲ弁ジ難ク殊ニ時珍又方以智既ニ其誤謬ヲ弁明セルモ今ヲ距ル初世子ノ春ニ其繁昌ヲ賛セル心蘭掌ハ乃チガガマ山蘭ハ乃チヤマトヨリハサ沢蘭ハ乃チサハヒヨドリ此皆茎葉共ニ香気アリ蘭草ハ離騒ニ所紅所佩ト詠シ鄭詩ニ士女ヲ秉蕑ト詠シ又礼ニ大夫執賛ヲ蘭ト云ヘル人皆日ヲ蘭花ノ如キハ其茎其葉共ニ香気アル無リ紅楓佩スベキモノニハ非サルナリ然シ此又方以智ノ説ニ出蘭在深谷不以無人而不芳ト云ヒタル国香ト傳フルモノハ亦蘭花ヲ指スト云ヤラ宜シ

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号　本別18-12
ガラス使用

ノ説ニ享保ノ比ヨリ此花ノ戸田原ニ自生アル
ヲ採出シ好事家ニ分ケ八異花ヲ得ンヤ欲シ生ニ節
ヲ以テ東キヲ探索スルニ唯一種ノミ
ヲ白花ヲ得ルニモ甚稀ナリシニ依テ偶然至ル
心絞ノ異ノ花ヲ発ク事ヲ大ニ
世ニ貴セラレシ之ヲ京ニ呼下シ更ニ異種ヲ得シト云
トコロヨリ種子ヲ下シ
心セシカ遂ニ瑠璃色ノ新花ヲ発シテ之ヲ賜
国ノ藤ト称シ漸次ニ此花流行シテ其雪
盛リニ天明ノ頃ヨリ寛政ヲ向ニテ葛向
又花瓣ノ裏紅ヲ創シ又カクシウニト呼
ヒテ益一時ニ行文化紀元ヲ過リ
ヒ花ノ変ヲ作シ八十八枚迄二次ヘ
南キヲ闘花ノ楽トシ其ヨリ
ヲ競争ヲシトモ云フ文政天保ノ向キノ珍花ヲ
誇ル徒モ亦リアリシ昔時ノ盛ナルニハ及ハス
モ陸続傳植ヘ九ヒシ諸国ニ流シ昔月園庭
娯楽ノ資トナリ今ヲ家禽ニ将軍勝花ノ
ニ世ヲ花ハ立錐着色国彙ヲシテ其業
精巧ナラズトモ亦参観ノ傍ラヘシ昔ヲ
叙ニ至ル而リ夏暑渓山ノ題ト詠セリ
ヒ草ハ林氏第五綴第一目ニシテ自然利目枝
草科ニ係ル漢名雨久菜ト称ス花ハ
甚圓説猶相似タリトモ実ニ的嘗ヲヤ未
詳ナラズ浮説ニ英佛蜀ニ産地ヲ亜シ但シ
ベリヤンニ自ヲトヲ羅甸ニ Pontederia

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12
ガラス使用

Lat. Amaena. ナリ 和日本ヨリ西洋ニ輸送シ大ニ賞揚セラレシモノニシテ其精図詳説ハウサテ氏ノ植物書ニ登載セリ

○米囊花

米囊花即ケ顕金罌粟花ハ又御米氏ケ甘ノ花愛玩スベシ矮性ノモノハ食用ニモシ又ソノ殻ヨリ医薬ヲ製造スヘキ一奇草ニシテ名部屋房家ノ石壁ノ如ク聳ケ立ツ

彼芝琪ニ花ケ着ケ大ナル瓣ニテ多雄蕊ノ実礎ケ圍抱シ林氏第十三綱第一目白罌科ノ顕生実科ニ係ル色雪白、鮮紅、紫紅或ハ多等数色アリ或ハ白ニテ紅色ノ縁アリ 橋艶灼爍ケノ美容牡丹ノ如シ故ニ花鏡ニモ賞牡丹錦袍花ノ称ケ負ヘリ

○洋産ニシテ草ハ亜細亜、泥入多ニ自生シ白児垂ノ変新嘗ハ亜細亜等ニテハ培育シテ冬ニ入リ又漢産ニテハ今ノ産地ケ記スル観ニシテ我日本ニテモ自生アルヲ見ズ

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12

ガラス使用

○茅子ヲ俗ニケシト訓スレトモ茅子ハカラシノナリ又筍子ノ筍ノ字ノ形盃ニ似タレハ古ヘ食物ヲ盛ル盃ナリ式ノ形究然ト如何ニ至ハ又種子ハ甚タ微細ノモノニテ形圓説ニシテ又ハ之ヲ研リ製シテ煎服スヘシ聯珠詩格ニ童子能煎鷰窠湯ノ句アリ註ニ鷰子窠其花亦有多葉者其子數千顆粒大ナル蔓歷子ヨリ色白湯等禮則佳研子ヲ以水煮ル加蜜為鷰窠湯ト旨シトリ又曰ク研和飯食又水研濾汁煮飯食又佳ナリ和漢共ニ食用ノモノトス

○汚南圃史ニ異憲集ヲ引テ蟹ヲ詠ルノ七古アリ其略ニ曰ク昆明花滿川蘼蕪香別種最芳妍青黃未著蟹先美米囊花似夢中看蒲團下蟹紅白都向地上蓮蟹ケタリニ月ニ至テ蟹ノ字ヲ蟹ニ作ルハ非ナリ蟹ハ蟲ノ名ニシテ蟹ハ艸ノ名

鉢煎以窓水便ヒ利候調養肺胃ニ至テ妙
画註曰此人称僧相對忘言飲之一杯大笑
忻然トソノ盤中ニ牡丹ヲ盛ツベシ

○荷包牡丹

一名花和名ハケマンサウ、ソケボタン東京ケシンボタン、クサボタン、信州ろぐボタン今ヤウラリウ仙台ヤウラクゲ、今ヤウラクボタン、キンケヤリおタンガノ数アリ漢名ハ荷包牡丹和傳花鏡奥児牡丹高野蘭牡丹ノ異名モアリ

Fumaria bulbosa

全ニシテ又線穿牡丹ノ異名ニシテ林氏弟六経弟目自然科蠟梅科羅甸ハ也

ト題セル詩三首ヲ載セテ第一詩ノ訊手含新
鶯驚荷蘗細枝ノ句註ニ俗呼芍荷包牡
丹トアリト第三詩ノ雙ノ句註ニ封中名線芽牡丹トミヘタリ
又ニノ遺事ニ感説ヲ引テ本邦ヘ此寶
唐山ヨリ始メテ来レルトヘル氏関白兼良公ノ尺素
往来ニ華髪曼花ト出セルヨリ已ニ
百餘ノ前ニモ擢アリシ事ナリトミヘリ而
ニ前ニ洋載セル所ノ本邦諸国山中自生ヲ
キテヲシベリ朝産ヲ観ルニヲヤ感
旧種モアリシヤ今之ヲ糸断シ疏
又敦信堂詩集ニ荷包牡丹ヲ詠ミヲ傷如
我歌ヲ往倫ト為ル附花主綿線誰絶テ金針自

引香柔姿新緑鬢低垂小紅囊含淚盈
々温絨情幾許長ト亦此花ヲ唯賞セリ又
植物名実ノ訛ナキヲ徴ス
名実ノ訛ナキヲ徴スベシ
又洋説ヲ考フルニ蘭人ウサッテ氏植物書ニ
荷包牡丹ノ図説ヲ洋載セリ云林郷斯氏
ハ此草ヲ既ニ解説シ蘂ノ麝ニ似ルヨリ
其花ノ状亦一様ナリト見シテヲリ然ル所
其扈ノ巴別シ此草ハ生ノ氏系董扈ドハ一種特
別ノモナルヲ論ヌ「如ニテモ百九十
ヲ」如ニテモ百九十種ヲ」氏ハ此草ヲ
一種ニシテソノ花形ニ複弁アルヲ以テ亦一
別扈トシ其名ヲ荷包牡丹ト称シ広漠

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12
ガラス使用

センタウト改称セラレ
荷包牡丹ハ原ト支那ノ北部又ハ
南アニ産シ大百年
人ノ妥国ニ輸送ラレ
欧州ニ繁衍シ到ル
ニ及テ
○金盞草
金盞草ハ和名金銭
ト野花又施寝覆花
漢譜ニ載ル金銭花モ
蕪ニ猶ホノ一品ニテ
相似タルヲ以テ
花施寝覆花ノ
ルームモ赤金盞花ノ
荒野譜四々菊三
星菊ヲ七寸花梗
赤花・又洋黄花
菊科ニ属シ其
曲リテ亡蛛ノ形ノ
円完尺蠖数枚
々下種シ益栽
ヤシ故ニ不断

ハ相会ジカラザルモノナリ又ト草ノ異名ハエガ子クサ、キン
サガツキ・フタンバナ・トキシラズ、ヒメガサカツキ、アリアケ
播州ケイセイソウ・加州テフセンクワ、東讃羅甸
Bella Americana. 又和蘭名ノ二般ガ
義ナリ又漢名ハ金盞児救
三才図会菊ノ異名ヲ
梗ヲ抽キ花ヲ着ノ花色ハ黄
花アリ形菊花様ニ似テ赤
曲リテ亡蛛ノ形ノ如キ異ノ形ノ如キ実ハ
珍モ結実牡蠣
之状ニ似リト草時
花ヲ季ト花ヲ賞ス
ヤシ故ニ不断花ト云ナツバナノ名アリ汐南国

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号　本別18-12
ガラス使用

史ニも金銭花ヒ時相継不絶故又名常春
花トゝヘり又長春菊ノ名もアり東奥ニハ不老
ヒ入谷又本所請地辺焼畑ニ多ク作ル
ゟ又ハ草本和ニ自生アリ
年時ハ詳ナラズ或ハ沖縄種ヨリ
花ノモノ昨オホキンセン
又唐キセンハ沖縄ヨリ来リ
リ洋説ヲ考フルニハ草ハ欧州ノ南部ニ自
生アリ園裁ヨリハ花形稍ヲ異ニ
色多クハ黄、赤黄ノ深黄ノ団
各漸ハ数ノ色アリ
時ハ発汗剤、強壮剤
ヤシトゝヘり又ハ婦
ト云ヘシ漫説ヲ茴葉煙熟シ油塩、調
食ロトゝヘり又坑鳴咽物百首ニ金盞花
ニ題シテ鶯猿不須
一叢歌能折来暫落
慶吏家輪郭金盞風
雨轉壊嗟出香馥郁
呼阿椿花ト咽ヲ
ト雪ヲ辨ヤガンノ訓ヲ
ツヒニ糸藤
凡ソ草ノ其ノ花ノ景愛玩スベキハ此糸藤ニ
テ我国固有ノ一名乳ナリ諸国ノ山林道辺
ニ自生最多ク其蔓ヨリ長ク二三尺ニ纏絆シ
羽辛鬣ヒラ葵相映シテ最美観トスベシ

ノ名ハ諸国普通ニシテ異名古言ハ勘シ但名
歌ニコムラサキグサ」「サノカタノハナ」「コツナグサ」等
ノ別称アリ又古書ニハ布治、敷治、衾摩」等
ナドト記セリ又マツ、傳抄ノ名モ有ヘシ
草根ヲ藤紫染本草等ノ異名アリ洋名
ヒーボルト、日本草木ニ常品ノ花穂ノ
最モモノヲ掲テコヲオイスタリヤムシロ
又穂ノ短キ者ヲ載セテウイスタリヤブラン
しボトルイスト警定ラ
○花二種アリ第一種ハ山野自生多シ
「フヂ」ト呼ブ同常人家庭園ニ移
植シ花ヲ賞ラントモトヨリ栽形ニ系花実

着ケテ淡紫色アリ濃色ノモノソノ穂長サ五六尺餘ニ
及ブ培養ニ因テ尚長キニ及ブ白花モアリ「シロフヂ」
ト呼ブ又第二種ハ穂短ク一二尺ニ過ギズ花数疎
ニシテ艶色猶早シ園庭ニ培
養シテ育シテ自ラ蔓延スルコトアリ「ヒメフヂ」又「シカ
フヂ」ト呼ブ葉ハ第一種ノ葉ニ似テ小ク花ハ第一種ノ
モ亦白花アリ又一変種ノ蔓ノ甚ダ長キモノアリ濃紫
色ニシテ珍玩スヘキ品トス「ヲニフヂ」或ハ「南京フ
ヂ」ト称ス又野田フヂハ撮州野男立生シ
テ名ノ如ク花稍小ク穂長サ四五尺アリ
尾州海栗、木曾ノ藤花ハ頗ル観ヒ
ヲ竟ヒ遥ヨリ望ムニ宛モ其他ノ藤ノ
容ノ如クニシテ其他ノ藤ノ如ク蔓ノ

花花雨多シ
漢土ニテモ此花ヲ貴ビテ秋傳花鏡ニモ色深ク茎重條
綿約可愛長安人家多種飾庭院以助喬
木之所不及トゾイヘリ王世貞ノ第藤花詩ニ蒙
昔一架自西成林囲窈窕幽深絶勝他相結念栽霞殿綴綺
紅蔓将比艷西陵松樹能攀深谷鳥雪芽
光相紛勢而繁因地異不掃向花籍組對清塵又我和
庭最不掃向花籍組對清塵又我和
詩客ノ吟哦モ助ケラルベシソノ一ニヲ掲ル
鴨園池物詩ニ曰
台高低榮着花来日映酒似
鑒毬簾暖風吹歩障流芳香特撲
欲勧帥杯又山陽詩
飲ニ清州早川氏庭

有藤花一架因号藤
為卿長家我詩七道縦横遥心遺
往見棘墓隔輒把十世甘軒轉長老藤壇
花年取会式祝花和歌ニ添ルヤ那ノ了翁
ラレタリケルヲ我モ接引ン暫ク
ノ藤曼ハ房気有盖ノ私トスルヲ織ルガ
ヲ藤布トモ信州濃州等ノ山民ノ称
ヲ木曽ニテハタヲヌノト称スル又藤衫ト云
フハ曼花ニニテ苦シ曼ノ皮ヲ剝ギ
須磨ノ漁人塩焼キヨリ藤服トモ
ノトス又山民ト嘯芽ヲ食用トス山陽駅
ヨク藤茗菜花未敢
ヨク藤茗菜花未敢特食良美又氏実
ヨク藤茗菜花未敢特食良美又氏実
四扇ニ云ニテ形墓ニ似リ和名抄又

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12
ガラス使用

本草和名、唐心方等ニ所謂狼跋子布知
刀美是ナリ山民之ヲ炒リテ食用トス又氏
曼ニ塊ヲ生ズルモノアリ「藤ユブ」ト呼ブ和方ニ
藤ヲトルヲ比煎汁疝ヲ治テ効アリトス云

○洋人モ概ネヲ以花ヲ甚ダ貴讃シ
ト思日本本草ニ寫ヌヲ怪ム味ニ薬
人ウサウテ氏ノ花譜ニモ雖美ノ図ヲ掲ケ和
産ノ説ニ両唐ノ世以前ハ牡丹無キガ如ク謂ヘル

○牡丹

牡丹ハ原ト漢種ニシテ我邦ニ自生ハ無シ漢土ニハ
巴郡、漢中、丹、延、秋州等其他諸山ニ産ス先
輩ノ説ニ両唐ノ世以前ハ牡丹無キガ如ク謂ヘル

実ニナキニハ非ラズシテ山中自生ハアリシモ其花
格別見事ニモ無リ故世愛花美癖ノ賛ヤ競ヒ出
ラレ如クナラザレバ賛称セザリシナラン故ニ丹州、延州辺ハ通中ニ最
多クシテ前株ニ異ナラズ土人ヨクテ新トナスト云
ヘリ是我邦ニ美濃鎌ケ谷山実ニハ枩花多リ
アレ氏世人ニ知ラレズ山民之ヲ伐リテ薪トナスニ
ナラニ近世ニ至テ漸ク現ハレ出デ一株ヲ掘ル
シテ漸本原ト漢種ニシテ始テ筑前ニ産ヲ
ヲ植ル改ニ筑前牡丹名ケリト
ヲ諸国ニ播植ス歴ハ今洋ナルニ及ビ又此花
ヲ傳ヲ知ルモノ多シ又氏花
ノ富貴、明色、妖艶、嬌態ナルハ世人皆熟知
セルヲ以テ今ヲ贅ニ及ハズ但其他諸説ノ雑

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12
ガラス使用

葉ニシテ圓長ノ諸ノ花辨ニ參シ又ハ二ノ花辨
單複、千辨アリ大、小、円、濶、狹、長、其形
一樣ナラズ細辨層ヲ重ヌルノ外辨上
ニ金線ヲ出ヅルアリ其色淺紅、猩血紅
一ナラズ辨外ニ紅ノ條アリ紅ニ絢白烏或ハ白線アルノモノ又初メ淺紅
漸ク紅ト成リ紅辨ニ絢白ノ條アルノモノ又初メ淺紅、濃紅、猩血紅ニ
變ジ終ニ白辨ニ紅ノ條アルノモノ又初メ淺紅
單或ハ重或ハ紅ノ細点或ハ紅色ノ
指甲痕アリ又白色ニシテ漢土ニハ黄牡丹ヲ貴ブ
黄ハ牛乳黄、甘草黄、黄ニ紅ヲ帶ブルモノ
唐畫ニモ濃淡黄花ノ圖往々觀ル所ナリ又
異ナル色ノ最濃ニシテ暗黑ニ近キハ又其
美ナラズ又其ハつつくさ、其ハ哦ノ誤歟
見シ事ナシ又ハ花ノ形ノ圓ナルヲ貴ブヘシ
リテ咏セシモノニシテソノ早晩數種、陸續開落二十日ノ間ニ相
ノ狀ヲ實ニ寫セリ白居易ノ詩ニ牡丹開落二十日ノ句ニ據
舍ノ家藏ニ牡丹譜アリ又花王圖譜六卷ア
リ洛陽山人ノ撰ニシテ初メ諸說ヲ解シ其ノ餘五冊ハ百三十種着色圖
最美、又近歲石川氏物園草木圖說ニモ
牡丹ヲ載セ置キシガ乾ヲ參觀スヘシ漢ニ
ハ欧陽脩洛陽牡丹記、
冊記、陸游天彭牡丹譜、胡元質牡丹譜、
師鳳翔毫州牡丹史等ノ名アリ洋遙皆

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号　本別18-12
ガラス使用

群家ノ考証トナスベキ諸種ナリ此花ハ他ノ諸花ノ如ク其撞子ニ因テ変花ヲ出ダスモノニテソノ奇形異色ノ夥多ナル殆ンド名状スベカラズ故ニ蕃変無常氷譜所能盡亦氷譜所能留也ト言ヘリ

○又漢土ニテ單ニ花トイヘバ牡丹ニシテ花王ト貴重スルコトハ指モ白玉朝ニテ花トスベキガ如シ而モ花王トモ称スルガ如シ古来藥用品トシ城州久世郡辺ヨリ出ス又支那ノ品トモナス漢説ニハ山中單瓣赤色ノモノヲ用フルト五雑俎ニモ見ヘタリ

近来數種子ヲ以テ斷然牡丹ニ充テコノ根ヲ以テ藥用トナスベキ者トセバ古方ノ牡丹ハ湯

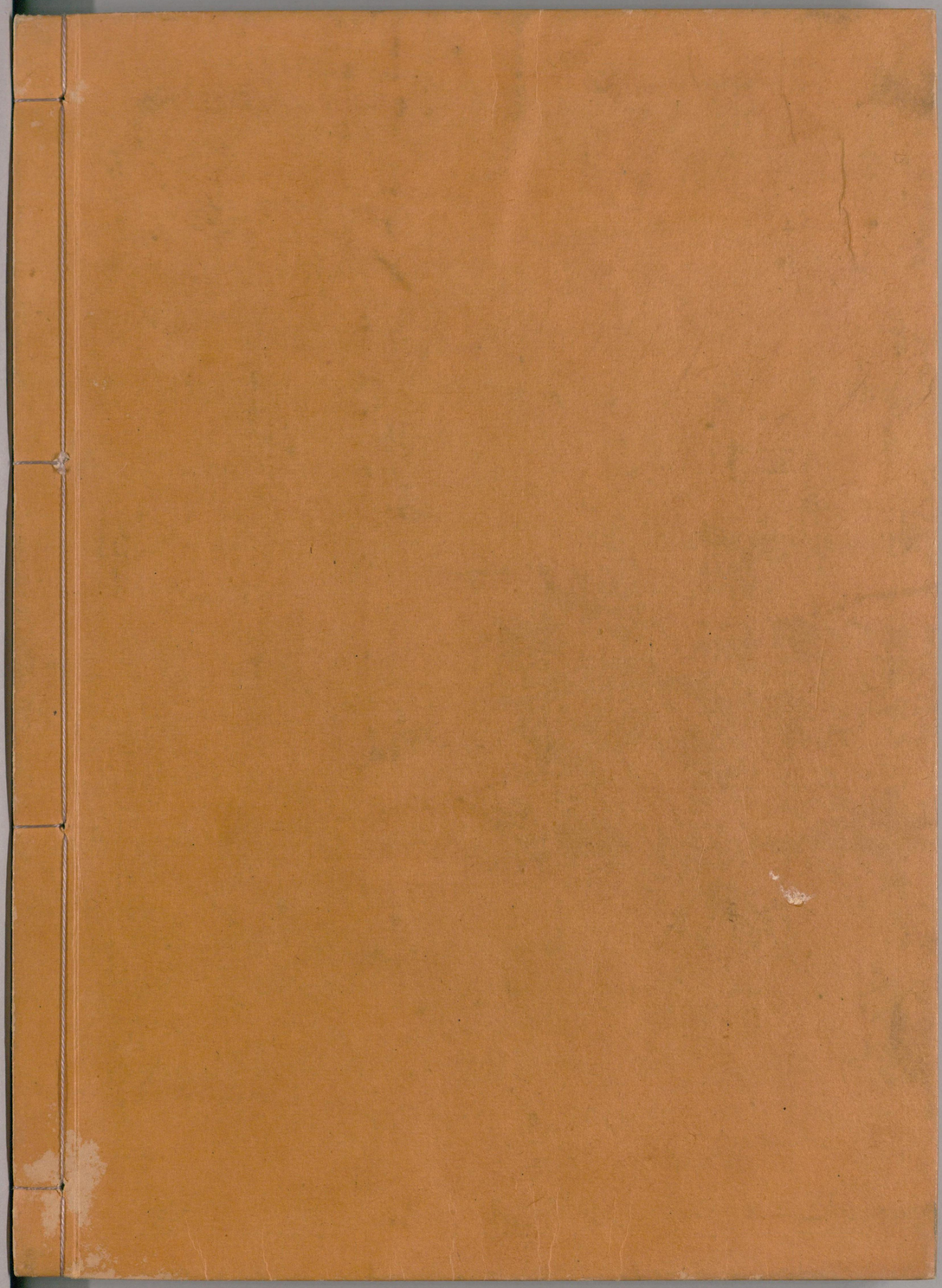
ニ投用セントスルモアリ數種子ノ小草細根ソノ皮ヲ用ユベキモ勿論山橘ノ名ニ泥ミ医藥ヲ訛ルベカラズ或ハ公名異物トナルモ可ナラン又牡丹ハ灌木ト雖モ積年培育シ傳ヘテ高サ一丈五六尺ニモ至リ百餘ノ花ヲ着クルモアリ又漢土ニテハ宋ノ頃ニ至リ千花ト唱ヘ牡丹ヲ以テ流行シ此花ヲシテ屏帳トナシ梁棟ヲ飾リ金ニテ竹筒ヲ掛ケ花ヲ挿シ満腹能壮丹ナラサルハナシト云フ東牧揚州ノ知事トナリソノ民害アルヲ察シ之ヲ禁セシトナリ禦ル救荒ノ一端ニ加ヘタリト云フベシ

○又世ニ三州猿投山ノ奥或ハ東海道大井川ノ水源巖間或ハ勢州多度山中ニモ牡丹

別18
12

在アリテ自生アルヿ如シ云ヘル皆眞ノ牡丹ニ非ズ
ミテ石南花ヲ意ヒ望ミテ誤認レタルモノナリ又
寒牡丹、漢名溫牡丹ニハ紅白ノ三種アリ蓋
心牡丹ノ充実ト洋説モ亦甚カラズ他日之ヲ追
補スベシ

国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『花史雑記』　請求記号 本別18-12

ガラス使用